平成二十三年度　ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

ひたちなか市教育委員会　財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

平成 23 年度
ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

試掘調査

津田若宮遺跡（第８次調査）
岡田遺跡（第 19 次調査）
東石川内後遺跡（第１次調査）
金上向山遺跡（第２次調査）
飯塚前遺跡（第２次調査）
西中根遺跡（第３次調査）
三反田新堀遺跡（第 16 次調査）
磯崎東古墳群（第８次調査）
畠ノ原遺跡（第２次調査）
金上塙遺跡（第７次調査）

本調査

三反田蜆塚遺跡（第３次調査）

2012

ひたちなか市教育委員会
財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡

三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡ピット 1

序 文

ひたちなか市は，関東地方の北東部，那珂川の河口の左岸に位置しております。関東平野の北端にほど近く，阿武隈山系へとつながる那珂台地が市域の大半を占めておりますが，那珂川沿いは水田の広がる沖積低地であり，東側は太平洋に面し，その海岸には砂丘や磯が広がるなど，大変バラエティに富んだ景観を呈しています。

このように海・山・川がバランスよくそろった多様な自然環境に恵まれたひたちなか市域は，原始・古代から人々の生活の地として栄えており，面積 99.04 km² の市域には合計約三百数十箇所にのぼる埋蔵文化財包蔵地が確認されております。
このなかでも古墳時代の埴輪作りの村である馬渡埴輪製作遺跡や装飾壁画で知られる虎塚古墳は国の史跡指定を受け，市を代表する遺跡として市民の誇りであるとともに，研究者等の注目も集めております。

このようにひたちなか市は緑豊かな自然に恵まれ，人口も僅かながら増加を続けておりますが，その代償として毎年活発な開発行為等が行われており，それに伴う発掘調査により多くの埋蔵文化財が出土しております。やむを得ぬ理由で失われていく文化財を少しでも後世に遺していくため，この市内遺跡発掘調査事業は，大きな意義を持っています。

今年度は，ひたちなか市文化・スポーツ振興公社に委託し，市内 11 箇所の埋蔵文化財包蔵地内において調査を実施いたしました。専門性豊かな職員を擁する同公社の手によって調査が行われることによって，出土した貴重な文化財がより有効に活用されるであろうと考えております。

最後になりますが，快く調査のご承諾をいただきました地権者や関係各位，また調査に参加されました皆様に感謝申し上げますとともに，本報告書が郷土ひたちなかの歴史について，新たな知見を加え，市民の皆さんが歴史に触れる縁となれば幸甚に存じます。

平成 24 年 3 月

ひたちなか市教育委員会
教育長　木下　正善

例　言

1　本書は，平成 23 年度国・県費補助事業として，ひたちなか市教育委員会の委託を受けて，財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施したひたちなか市内の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本書は，平成 23 年 1 月から 12 月にかけて実施された発掘調査についての報告であり，津田若宮遺跡・岡田遺跡・東石川内後遺跡・金上向山遺跡・飯塚前遺跡・西中根遺跡・三反田新堀遺跡・磯崎東古墳群・畠ノ原遺跡・金上塙遺跡の計 10 遺跡について，10 件の試掘・確認調査を実施し，三反田蜆塚遺跡の 1 件について本調査を実施した。調査期間は次のとおりである。

津田若宮遺跡	2011 年 2 月 1 日～ 2 日	岡田遺跡	2011 年 2 月 8 日～ 10 日
東石川内後遺跡	2011 年 3 月 9 日～ 25 日	金上向山遺跡	2011 年 4 月 26 日～ 5 月 14 日
飯塚前遺跡	2011 年 6 月 7 日～ 9 日	西中根遺跡	2011 年 6 月 16 日～ 22 日
三反田蜆塚遺跡	2011 年 7 月 22 日～ 8 月 23 日	三反田新堀遺跡	2011 年 8 月 3 日～ 6 日
磯崎東古墳群	2011 年 8 月 30 日～ 9 月 24 日	畠ノ原遺跡	2011 年 11 月 24 日～ 12 月 8 日
金上塙遺跡	2011 年 11 月 30 日～ 12 月 6 日		

3　発掘調査および整理報告は，ひたちなか市教育委員会文化振興室の指導のもとに，財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化課文化財調査事務所が実施したものであり，組織は次のとおりである。

理事長	松本正宏	
副理事長	木下正善	
常務理事	兼山　隆　山田　博	
理事	佐藤良元　武藤　猛　薄井宏安　槇　和美　大和田健　綱川　正　後藤芳文 打越秋一　雨宮久美子　興野正憲　飯塚敏晴　村上剛久　柏原　実	
監事	住谷勝男　佐藤　大	
文化課 文化財調査事務所	課長	西野　均
	副参事兼課長補佐兼所長	鈴木素行
	係長	佐々木義則　桑原さと子
	主幹	稲田健一
	嘱託	菊池順子　鈴鹿八重子

4　発掘調査の従事者は次の通りである。

調査員：佐々木義則

調査補助員：石井雅志，海老原四郎，坪内治良，廣水一真，福原雅美，矢野徳也，渡辺恵子

5　整理作業及び本書の作成に従事したものは，次の通りである。

青木千歌子，稲田健一，海老原四郎，小貫栄子，菊池順子，桐嶋美子，栗田昌幸，後藤みち子，佐々木義則，佐藤富美江，鈴鹿八重子，鈴木素行，西野陽子，廣水一真，矢野徳也，渡辺恵子

6　本書は，佐々木義則が編集した。

7　本書の執筆と分担は以下のとおりである。

栗田昌幸（調査経緯）　鈴木素行（弥生時代以前の出土遺物）　矢野徳也（町屋石について）

稲田健一（三反田蜆塚遺跡第 3 次調査第 8 号住居跡出土遺物）　佐々木義則（左記以外）

8　発掘調査の出土資料は，ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保存している。

9　本書の作成にあたっては，次の方々に御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。

相田美樹男，浅野悦子，新井聡，植野京子，白井克夫，大山拓海，川崎純徳，近藤裕子，志関弘平，篠原とよ子，清水孝義，矢野広子，打越建設有限会社（50 音順・敬称略）

10　事務局は，ひたちなか市教育委員会総務課文化振興室内に置き，組織は次のとおりである。

総務課 文化振興室	課長	大内　康弘
	文化振興室長	斉藤　新
	主幹	栗原　久枝
	主任	栗田　昌幸
	主事	栗田　貴祥　竹内　将

目　次

Ⅰ　概要　1

Ⅱ　試掘調査報告

1　津田若宮遺跡　3
（1）過去の調査　3　（2）第８次調査報告　3

2　岡田遺跡　4
（1）過去の調査　4　（2）第 19 次調査報告　4
（3）岡田遺跡の土器片に観察された動物の齧り痕について　19

3　東石川内後遺跡　23
（1）第１次調査報告　24

4　金上向山遺跡　26
（1）過去の調査　26　（2）第２次調査報告　26

5　飯塚前遺跡　28
（1）過去の調査　28　（2）第２次調査報告　28

6　西中根遺跡　29
（1）過去の調査　29　（2）第３次調査報告　29

7　三反田新堀遺跡　30
（1）過去の調査　30　（2）第16次調査報告　30

8　磯崎東古墳群　31
（1）過去の調査　31　（2）第８次調査報告　31

9　畠ノ原遺跡　34
（1）過去の調査　34　（2）第２次調査報告　34

10　金上塙遺跡　36
（1）過去の調査　36　（2）第７次調査報告　36

Ⅲ　本調査報告

1　三反田蜆塚遺跡第３次調査報告　40
（1）発掘調査の経緯　40　（2）調査の経過　40
（3）住居跡　40　（4）溝跡　48
（5）土坑　48　（6）弥生時代以前の出土遺物　50

報告書抄録

奥付

挿　図　目　次

第１図　調査遺跡の位置　1
第２図　津田若宮遺跡の調査地点　3
第３図　津田若宮遺跡第８次調査区　3
第４図　岡田遺跡の調査地点　4
第５図　岡田遺跡第 19 次調査区　5
第６図　岡田遺跡第 19 次調査区土層断面　6
第７図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（１）　7
第８図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（2）　8
第９図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（3）　9
第 10 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（4）　10
第 11 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（5）　12
第 12 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（6）　13
第 13 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（7）　14
第 14 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（8）　16
第 15 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（9）　17
第 16 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（10）　18
第 17 図　岡田遺跡の土器片に付いた傷跡　19
第 18 図　足洗遺跡の土器に付いた傷跡　21
第 19 図　石神２号墳の石製品に付いた傷跡　22
第 20 図　東石川内後遺跡の調査地点　23
第 21 図　東石川内後遺跡第１次調査区　23
第 22 図　東石川内後遺跡第１次調査区土層断面　24
第 23 図　東石川内後遺跡第１次調査区出土遺物　25
第 24 図　金上向山遺跡の調査地点　26
第 25 図　金上向山遺跡第２次調査区　27
第 26 図　金上向山遺跡第２次調査区出土遺物（1）　27
第 27 図　金上向山遺跡第２次調査区出土遺物（2）　27
第 28 図　飯塚前遺跡の調査地点　28
第 29 図　飯塚前遺跡第２次調査区　28
第 30 図　飯塚前遺跡第２次調査区出土遺物　28
第 31 図　西中根遺跡の調査地点　29
第 32 図　西中根遺跡第３次調査区　30
第 33 図　西中根遺跡第３次調査区出土遺物　30
第 34 図　三反田新堀遺跡の調査地点　31
第 35 図　三反田新堀遺跡第 16 次調査区　31
第 36 図　磯崎東古墳群の調査地点　32
第 37 図　磯崎東古墳群第８次調査区　33

第 38 図　磯崎東古墳群第 8 次調査区第 1 ～ 4 号石室　33
第 39 図　磯崎東古墳群第 8 次調査区出土遺物　33
第 40 図　畠ノ原遺跡の調査地点　34
第 41 図　畠ノ原遺跡第 2 次調査区　35
第 42 図　畠ノ原遺跡第 2 次調査区出土遺物（1）　36
第 43 図　畠ノ原遺跡第 2 次調査区出土遺物（2）　36
第 44 図　金上塙遺跡の調査地点　37
第 45 図　金上塙遺跡第 7 次調査区　37
第 46 図　金上塙遺跡第 7 次調査区第 1 号住居跡　37
第 47 図　金上塙遺跡第 7 次調査区出土遺物（1）　38
第 48 図　金上塙遺跡第 7 次調査区出土遺物（2）　38
第 49 図　金上塙遺跡第 7 次調査区出土遺物（3）　38
第 50 図　三反田蜆塚遺跡の調査地点　40
第 51 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区　41
第 52 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区出土遺構　42
第 53 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡断面図　43
第 54 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区遺物出土状況　44
第 55 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡出土遺物（1）46
第 56 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡出土遺物（2）47
第 57 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡出土遺物（3）47
第 58 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区溝跡出土遺物　48
第 59 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 5 号土坑出土遺物　49
第 60 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8A 号土坑出土遺物　49
第 61 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区出土遺物（1）　51
第 62 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区出土遺物（2）　52
第 63 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区出土遺物（3）　53

表　目　次

第 1 表　市内遺跡発掘調査一覧（平成 23 年）　2
第 2 表　津田若宮遺跡調査一覧　3
第 3 表　岡田遺跡調査一覧　4
第 4 表　西中根遺跡調査一覧　30
第 5 表　三反田新堀遺跡調査一覧　31
第 6 表　磯崎東古墳群調査一覧　32
第 7 表　金上塙遺跡調査一覧　37

本文写真目次

写真 1　三反田蜆塚貝塚の骨片に付いた傷跡　20
写真 2　クマネズミの頭骨標本　21
写真 3　大島墓地における石仏・墓石類の状況　23
写真 4　遺構確認状況　40
写真 5　ふるさと考古学受講生の発掘体験　40

写真図版目次

図版 1　試掘調査（1）
図版 2　試掘調査（2）
図版 3　試掘調査（3）・本調査（1）
図版 4　本調査（2）

凡　例

1　遺物図の縮尺は，原則として 1/4，1/2 である。
2　遺構図の方位は磁北を使用している。
3　遺構図にみられる「K」の記号は攪乱を示す。
4　遺物図における断面の表現は，黒塗りが須恵器であることを示す。

Ⅰ 概 要

ひたちなか市は，茨城県の中央部に位置し，面積99.04㎢，人口約15万7千人（平成24年1月末）を擁する地方中心都市である。市域南側を東流する那珂川は栃木県那須岳に源を発し，茨城県のほぼ中央部を東西に横断し太平洋へと注ぐ全長150kmの河川であり，古くから流域の文化形成に大きな役割を果たしてきた。本市は，この那珂川河口左岸域に位置する。市域は那珂川の支流である中丸川・大川・木郷川により開析され，小支谷が発達する。市域の北側を東流する新川付近の低地は，近世まで真崎浦という入り江であったが，現在は広く水田化され，東海村との境となっている。

現在市内には，約360か所の遺跡が所在する。市域では昭和30年ごろから都市化が進み，周知遺跡内における個人住宅建設件数も増加の一途をたどり，そうした事態に対応すべく，昭和54（1979）年から，国・県の補助を受け，市教育委員会を主体とした市内遺跡発掘調査事業を継続して実施してきた。市内遺跡発掘調査は市内各地で実施されてきたこともあり，市域の埋蔵文化財の全体的状況を知る上で，その調査の成果は貴重な資料となっている。

平成20年度から，市内遺跡発掘調査は市教育委員会から財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に委託されるようになり，公社が主体となり実施されるようになった。本年度はその4年目となるが，11ヵ所の遺跡において，試掘調査10件，本調査1件が実施され，三反田蜆塚遺跡における古墳時代後期住居跡の調査や，磯崎東古墳群における古墳・石室の確認等の成果を得ている。

第1図 調査遺跡の位置

第１表　市内遺跡発掘調査一覧（平成 23 年）

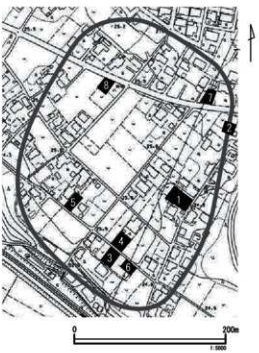
No.	遺跡名	調査次数	所在地	調査期間	調査種別	調査面積	出土遺構	主な出土遺物
1	つだわかみやいせき 津田若宮遺跡	8次	津田字若宮 3445-1	2011. 2.1 ～ 2	試掘調査	24 ㎡	ピット 8 基	なし
2	おかだいせき 岡田遺跡	19 次	三反田字八幡 3553-1，3555-1	2011. 2.8 ～ 10	試掘調査	170 ㎡	住居跡 6 基（弥生後期 4 基，古墳前期 1 基，時期不明 1 基），包含層（縄文早期）	縄文土器・弥生土器・土師器・石器
3	ひがしいしかわうちごいせき 東石川内後遺跡	1 次	東大島 1 丁目 29-8	2011. 3. 9 ～ 25	試掘調査	48 ㎡	盛土状遺構 1 基，溝跡 3 条，土坑 2 基，ピット 5 基	縄文土器・須恵器・陶磁器・墓石
4	かねあげむかいやまいせき 金上向山遺跡	2 次	金上字向山 636-1，638-1，639	2011. 4.26 ～ 5.14	試掘調査	340 ㎡	溝跡 7 条，土坑 3 基	縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器
5	いいづかまえいせき 飯塚前遺跡	2 次	三反田字新平 3254-1	2011. 6.7 ～ 9	試掘調査	37 ㎡	土坑 1 基	縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器
6	にしなかねいせき 西中根遺跡	3 次	中根字城之内 5018-1	2011.6. 16 ～ 22	試掘調査	56 ㎡	なし	縄文土器・土師器・陶磁器・石器
7	みたんだしいづかいせき 三反田蜆塚遺跡	3 次	三反田字天王前 5115-1	2011.7.22 ～ 8.23	本調査	154 ㎡	住居跡 1 基（古墳後期），土坑 4 基（江戸時代 2 基，時期不明 2 基），溝跡 2 条（江戸時代以前 1 条，時期不明 1 条）	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・煙管・銅銭・陶磁器
8	みたんだしんぼりいせき 三反田新堀遺跡	16 次	三反田字新堀 5173-2	2011. 8.3 ～ 6	試掘調査	54 ㎡	なし	なし
9	いそざきひがしこふんぐん 磯崎東古墳群	8 次	磯崎町 4598-1	2011. 8.30 ～ 9.24	試掘調査	414 ㎡	石室 4 基，古墳 1 基（横穴式石室 1 基），土坑 1 基	須恵器
10	はたのはらいせき 畠ノ原遺跡	2次	金上字畑ヶ原 906-2	2011. 11.24 ～ 12.8	試掘調査	102 ㎡	住居跡 4 基(時期不明)，溝跡 5 条(時期不明)	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器
11	かねあげはなわいせき 金上塙遺跡	7 次	金上字塙 807 番の一部	2011. 11.30 ～ 12.6	試掘調査	96 ㎡	住居跡 4 基(9 世紀 1 基，11 世紀 1 基，時期不明 2 基)，溝跡 4 条(時期不明)	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器

Ⅱ　試掘調査報告

1　津田若宮遺跡

（1）過去の調査

津田若宮遺跡は過去に７次の調査が実施され，住居跡は 14 基検出されている。縄文時代の住居跡は中期を主体とするようであり，台地縁辺部に位置する第６次調査区で２基検出されている。古墳時代前期の住居跡は，第１・２・４・７次調査区で５基検出されていることからみて，遺跡東方の谷に沿うように集落域が広がるのがわかる。また古墳時代中期と後期，それぞれ１基ずつの住居跡が第３次調査区で検出されており，縄文中期同様台地縁辺部に集落を形成するようである。奈良時代の住居跡は第１次調査区で１基検出されている。



第２図　津田若宮遺跡の調査地点

第２表　津田若宮遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1981	勝田市教委	本調査	住居跡２，土坑２	1
2	1982	勝田市教委	本調査	住居跡１	1
3	1983	勝田市教委	本調査	住居跡３，土坑１	2
4	1985	勝田市教委	本調査	住居跡２	3
5	1993	勝田市教委	試掘調査	なし	4
6	1997	市教委	本調査	住居跡４，土坑	5
7	2001	市教委	本調査	住居跡２	6

文献

1　昭和 56 年度市内遺跡発掘調査報告書

2　昭和 58 年度市内遺跡発掘調査報告書

3　昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書

4　平成５年度市内遺跡発掘調査報告書

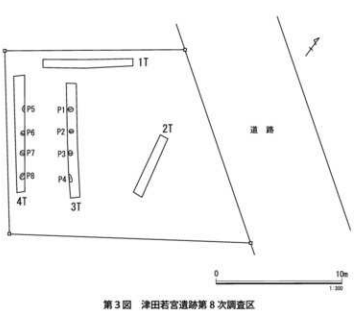
5　津田若宮遺跡発掘調査報告書

6　平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書

（2）第８次調査報告

調査経緯　　大字津田字若宮 3445-1 に所在する土地について個人住宅建築の計画があり「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。現地は津田若宮遺跡に当たっており，踏査を行なったところ，土師器片などの遺物の散布を認めた。教育委員会は建築・土木工事を行なう際は事前に試掘調査を必要とする旨の回答を行なった。続いて，文化財保護法 93 条１項に基づく届出が提出されたため，茨城県教育委員会にそれを進達するとともに，試掘調査についてひたちなか市文化・スポーツ振興公社に依頼した。試掘調査は２月１日～２月２日にかけて行われた。

調査結果　　調査地は，台地縁辺部から 180 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は荒地である。調査対象地内に４本のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.7 ～ 0.8 mを測る。調査の結果，４基ずつ並列する径 30 ｃｍ程のピットが８基検出された。おそらく堀立柱建物跡になると思われる。遺物はなく時期は不明である。



第３図　津田若宮遺跡第８次調査区

第４図　岡田遺跡の調査地点

第３表　岡田遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	勝田市教委	試掘	なし	1
2	1983	勝田市教委	本調査	住居跡３（十王台１，古墳後期２）	2
3	1985	勝田市教委	試掘	住居跡２（古墳後期１，不明１）	3
4	1990	勝田市教委	本調査	住居跡３（８世紀１，９世紀１，不明１），竪穴遺構１	4
5	1991	勝田市教委	試掘	なし	なし
6	1997	市教委	本調査	住居跡５（十王台１，古墳後期１，８世紀２，９世紀１）	5
7	2003	市教委	試掘	なし	6
8	2005	市教委	試掘	なし	7
9	2006	市教委	試掘	なし	なし
10	2006	市教委	試掘	住居跡２（時期不明）	8
11	2006	市教委	試掘	なし	8
12	2006	市教委	本調査	住居跡１（十王台）	8
13	2006	市教委	試掘	なし	8
14	2006	市教委	試掘	住居跡（時期不明）	なし
15	2007	市教委	試掘	住居跡１（時期不明）	9
16	2007	市教委	本調査	住居跡１（古墳後期），溝１	9
17	2007	市教委	試掘	住居跡１（時期不明）	9
18	2010	公社	試掘	住居跡２（十王台１，時期不明１）	10

文献

1　昭和 57 年度市内遺跡発掘調査報告書
2　昭和 58 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
4　平成元年度市内遺跡発掘調査報告書
5　岡田遺跡発掘調査報告書
6　平成 15 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
7　平成 17 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
8　平成 18 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
9　平成 19 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
10　平成 21 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

2　岡田遺跡

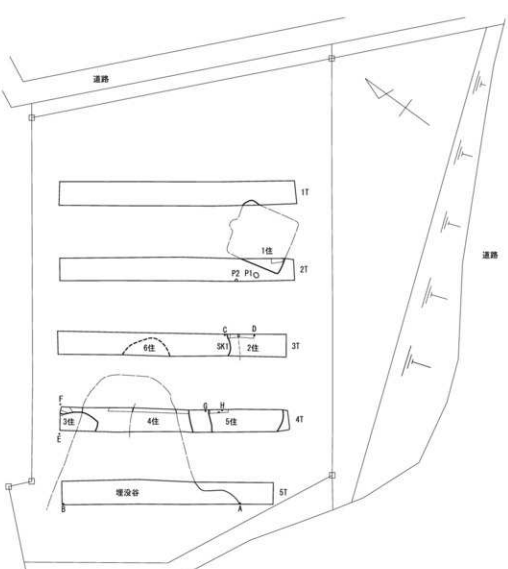
（1）過去の調査

岡田遺跡においては，これまで 18 次に及ぶ調査が実施され，21 基に及ぶ住居跡が検出されている。その住居跡数を時期別にみると，弥生時代後期（十王台式期）４基，古墳時代後期５基，８世紀３基，９世紀２基，時期不明７基となり，弥生時代後期，古墳時代後期，奈良・平安時代の集落が認められる。これまでの住居跡の検出状況からみると，弥生・古墳時代の集落は遺跡全体に展開するようであるが，奈良・平安時代の集落は岡田遺跡の北部を中心とするようである。

（2）第 19 次調査報告

調査経緯　大字三反田字八幡 3553-1，3555-1 に所在する土地について集合住宅建築の計画があり「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。現地は岡田遺跡に当たっており，踏査を行なったところ，土師器片などの遺物の散布を認めた。教育委員会は建築・土木工事を行なう際は事前に試掘調査を必要とする旨の回答を行なった。続いて，文化財保護法 93 条１項に基づく届出が提出されたため，茨城県教育委員会にそれを進達するとともに，試掘調査についてひたちなか市文化・スポーツ振興公社に依頼した 。試掘調査は２月８日～２月 10 日にかけて行われた。

調査結果　調査地は那珂川を臨む台地縁辺部に立地する。現状では平坦な地形を呈しているが，台地縁辺部は盛土が施されていることが今回の調査で確認されているので，本来は那珂川に向かい緩く傾斜した地形であったのだろう。調査時は畑地であった。調査対象地内に５本のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.2 ～ 1.0 m を測る。調査の結果，住居跡は６基確認された。住居跡の時期は，弥生時代後期（十王台式期）４基（2・4・5・6 住），古墳時代前期１基（3 住），時期不明（1 住）である。1 住は覆土中より竈補強材に用いられたと思われる泥岩片が出土していることから，竈出現以後である古墳時代後期以後の住居跡になる可能性がある。6 住は床が部分的に確認



第５図　岡田遺跡第 19 次調査区

文時代早期(撚糸文系)　器種：深鉢形土器　文様：撚糸文(ｒの絡条体)

3　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷　時代時期：縄文時代早期(沈線文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部に部分的な刻み，太沈線文

4　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷　時代時期：縄文時代早期(沈線文系)　器種：深鉢形土器　文様：太沈線文

5　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷№２　時代時期：縄文時代早期(沈線文系)　器種：深鉢形土器　文様：太沈線文

6　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷№１　時代時期：縄文時代早期(沈線文系)　器種：深鉢形土器　文様：太沈線文

7　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷№１　時代時期：縄文時代早期(沈線文系)　器種：深鉢形土器　法量：口径１２８mm(残存率15%)　文様：無文(撫で調整)

8　出土位置：５トレ表土，５トレ埋没谷　注記：５トレ表土，５トレマイボツ谷№２　時代時期：縄文時代早期(沈線文系)　器種：深鉢形土器　文様：細沈線文

9　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷№２　時代時期：縄文時代早期(沈線文系，田戸上層式か)　器種：深鉢形土器　文様：沈線文(部分的に波状の施文)，刺突文

10　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷№２　時代時期：縄文時代早期　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，凹線文

11　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷，５トレマイボツ谷№２　時代時期：縄文時代早期　器種：深鉢形土器　文様：沈線文(篦状工具)

12　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷　時代時期：縄文時代早期(条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部刺突文，外

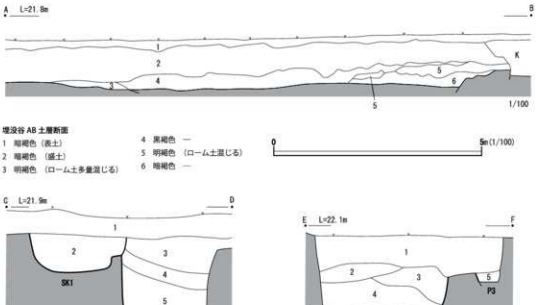
されるる遺存状況であり，住居範囲は明瞭ではない。なお調査区南西部に浅い埋没谷が入っており，谷覆土中より縄文時代早期の土器片が，焼けた礫を伴って出土している。このほか，3･4 トレンチ表土および遺構覆土中より，足洗式土器の破片が出土している。

遺物説明

第７図

1　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷№２　時代時期：縄文時代早期(撚糸文系)　器種：深鉢形土器　文様：撚糸文(Ｌの絡条体)

2　出土位置：５トレ埋没谷　注記：５トレマイボツ谷　時代時期：縄



第6図　岡田遺跡第19次調査区土層断面

面条痕文・貝殻腹縁文，内面条痕文・貝殻腹縁文　備考：胎土の繊維含有は不明

13　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№1　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文・貝殻腹縁文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含むか

14　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文・刺突文（2列が観察できる），内面不明　備考：胎土の繊維含有は不明

15　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№1　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文・刺突文（4列が観察できる），内面条痕文・撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含むか

16　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№1　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整・沈線文・刺突文，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明

17　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№1　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整・隆帯貼付（2条が観察できる），内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

18　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№1　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整，突起状の貼付　備考：胎土に繊維を少量含む

19　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№2　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整・凹線による渦状文，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明

第8図

1　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№1　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　法量：口径225 mm（残存率12％）　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

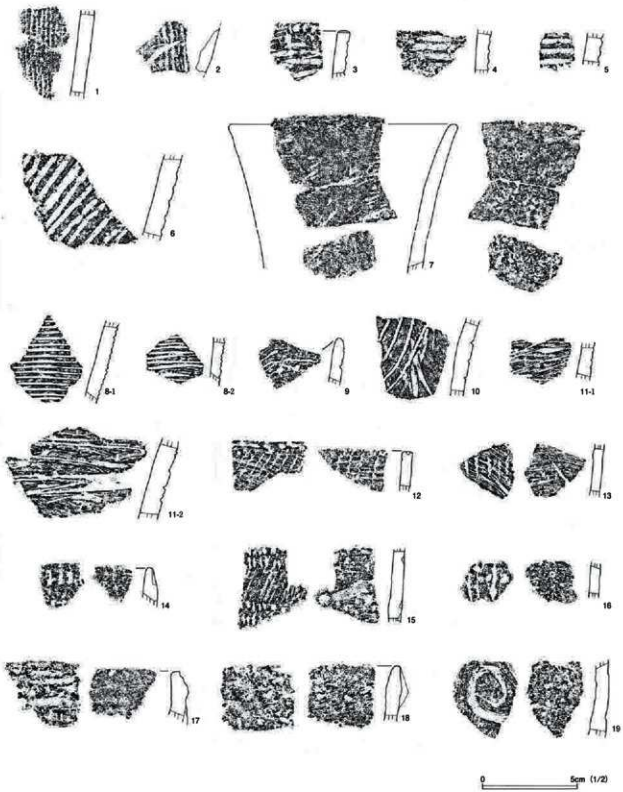
2　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№1　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　法量：最大径168 mm（残存率16％）　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

3　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№2　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　法量：最大径66 mm（残存率15％）　文様：外面撫で調整，内面条痕文・撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明

4　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№1　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　法量：最大径114 mm（残存率20％）　文様：外面撫で調整，内面条痕文　備考：胎土に繊維を含む，内面に炭化物付着

5　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№2　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　法量：最大径164 mm（残存率14％）　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

6　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№2　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　法量：残存高128 mm，

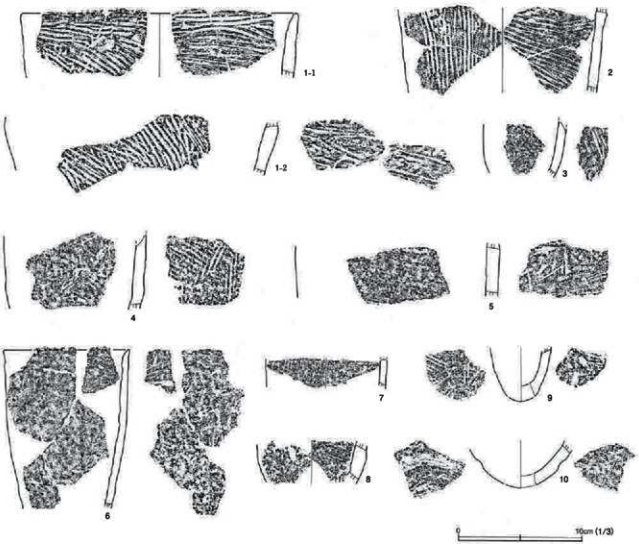


第７図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（1）

口径 102 mm（残存率 13％）　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

7　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　法量：最大径 98 mm（残存率 15％）　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明，上端は擬口縁

8　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　法量：最大径 88 mm（残



第８図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（２）

存率 15％）　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

9　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　法量：最大径 49 ㎜ (残存率 30％)　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：底部付近に回転されて付いたような擦痕が観察される，胎土に繊維を少量含む

10　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　法量：最大径 82 ㎜ (残存率 215％)　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：底部付近に回転されて付いたような擦痕と窪みが観察される，胎土に繊維を少量含む

第９図

1　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部刻み (棒状工具)，外面沈線文もしくは条痕文，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

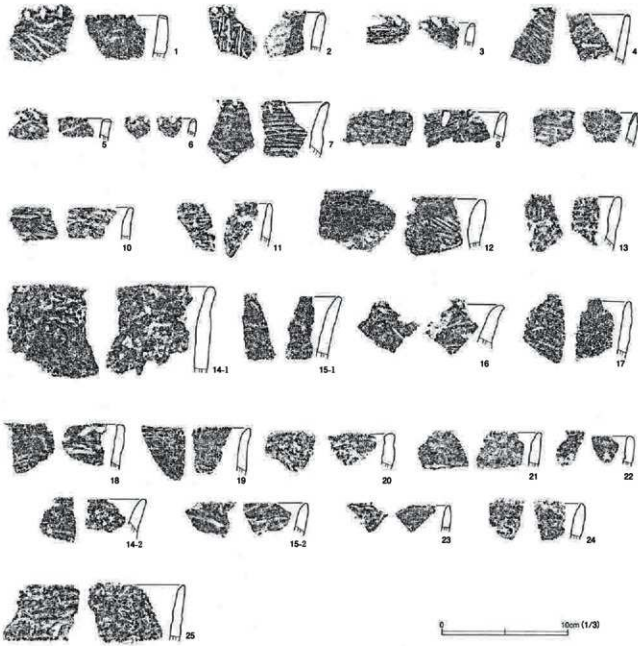
2　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部刻み (棒状工具)，外面沈線文もしくは条痕文，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

3　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部刻み (棒状工具)，外面条痕文・撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

4　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部刻み (角棒状工具)，外面条痕文・撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明

5　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部刻み (角棒状工具)，外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明

6　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部刻み (棒状



第９図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（３）

工具)，外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明

7　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部刻み (棒状工具)，外面撫で調整，内面条痕文　備考：胎土の繊維含有は不明

8　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：口唇部刻み (棒状工具)，外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明

9　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明，押圧により口縁が内外に波打つ

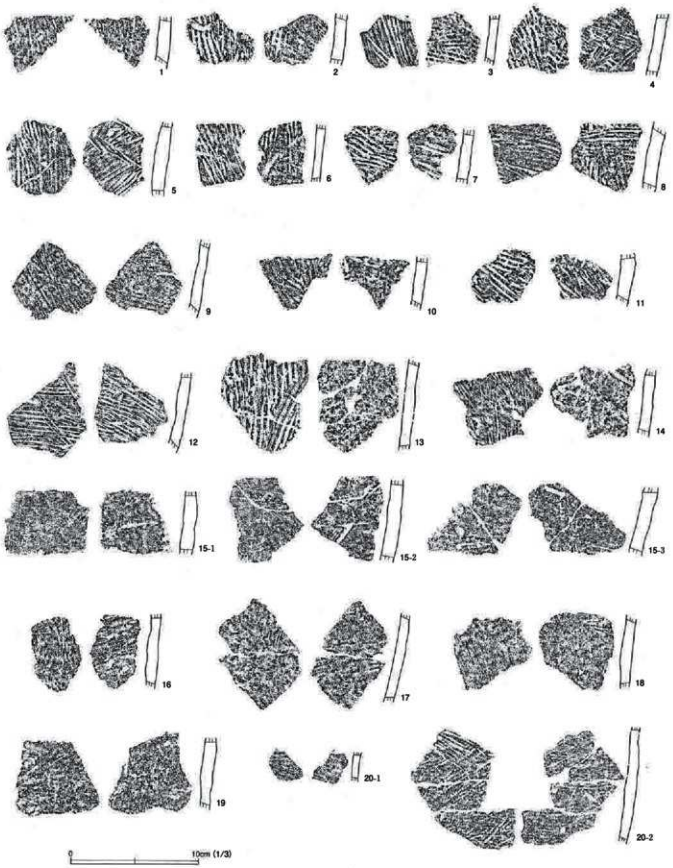
10　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整・細かな条痕文，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

11　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

12　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面条痕文・撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

13　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文・撫で調整か，内面条痕文・撫で調整か　備考：胎土に繊維を含む

14　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1，№ 2



第10図　岡田遺跡第19次調査区出土遺物（4）

時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

15　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷№1，№2　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

16　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

17　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

18　出土位置：4トレ表土　注記：4トレ表土　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明，内面に凸凹あり

19　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

20　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む，内外面に凸凹あり

21　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

22　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

23　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明

24　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

25　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む，内外面にげっ歯類が齧ったような痕跡あり (19-22 頁参照)

第 10 図

1　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

2　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

3　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

4　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

5　出土位置：4住層土　注記：4住フク土　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

6　出土位置：4住覆土　注記：4住フク土　時代時期：縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

7　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

8　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文・撫で調整，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

9　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文・撫で調整，内面条痕文・撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

10　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文・撫で調整，内面条痕文・撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

11　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土に繊維を少量含む

12　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面条痕文　備考：胎土の繊維含有は不明

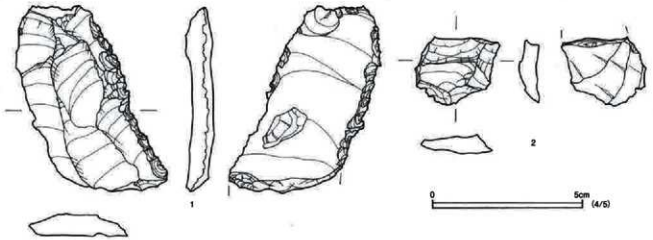
13　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

14　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む，内外面に凸凹あり

15　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む,内外及び断面にげっ歯類が齧ったような痕跡あり (19-22 頁参照)

16　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№2　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む，内面に凸凹あり

17　出土位置:5トレ埋没谷　注記:5トレマイボツ谷№1　時代時期:縄文時代早期 (条痕文系)　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内



第 11 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（5）

面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

18　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む

19　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面撫で調整，内面撫で調整　備考：胎土に繊維を少量含む，内外面にげっ歯類が齧ったような痕跡あり

20　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1，№ 2　時代時期：縄文時代早期（条痕文系）　器種：深鉢形土器　文様：外面条痕文・撫で調整，内面条痕文・撫で調整　備考：胎土の繊維含有は不明，金雲母の細片を多量に含む異質な胎土

第 11 図

1　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　器種：削器　石材：珪質頁岩　法量：長さ 62 ㎜，幅 51 ㎜，厚さ 7 ㎜　重量：27.2 g　備考：剥片の剥離面と調整加工の剥離面の風化の進行が異なることから，旧石器時代の剥片が縄文時代に再利用されるというような，時期の古い剥片を利用した可能性がある

2　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　器種：剥片　石材：ガラス質黒色安山岩　法量：長さ 23 ㎜，幅 29 ㎜，厚さ 6 ㎜　重量：4.5 g　備考：破片。表面の風化の進行状態から旧石器時代の可能性がある

第 12 図

1　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：礫器　石材：ホルンフェルス　法量：長さ 71 ㎜，幅 55 ㎜，厚さ 12 ㎜　重量：71.4 g

2　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　器種：打製石斧　石材：蛇紋岩　法量：長さ 72 ㎜　幅 43 ㎜，厚さ 23 ㎜　重量：55.8 g　備考：破片，表面と裏面の礫面に研磨痕あり（刷部分）

3　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：打製石斧　石材：ホルンフェルス　法量：長さ 89 ㎜，幅 55 ㎜，厚さ 30 ㎜　重量：187.0 g　備考：剥片素材

4　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　器種：打製石斧　石材：粘板岩　法量：長さ 82 ㎜，幅 39 ㎜，厚さ 19 ㎜　重量：106.2 g　備考：表面に研磨痕（刷部分）と敲打痕あり

5　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：礫器　石材：ホルンフェルス　法量：長さ 84 ㎜，幅 53 ㎜，厚さ 25 ㎜　重量：108.7 g　備考：表面から裏面に研磨痕あり

第 13 図

1　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：敲石　石材：石英斑岩　法量：長さ 130 ㎜，幅 78 ㎜，厚さ 51 ㎜　重量：486.5 g　備考：長軸両端の 2 箇所を使用，被熱による変色（赤化）が認められる

2　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　器種：敲石　石材：ホルンフェルス　法量：長さ 100 ㎜，幅 57 ㎜，厚さ 46 ㎜　重量：289.6 g　備考：側面を使用，破断面との稜部分も使用，被熱による変色（赤化）は敲石として使用する以前のもの

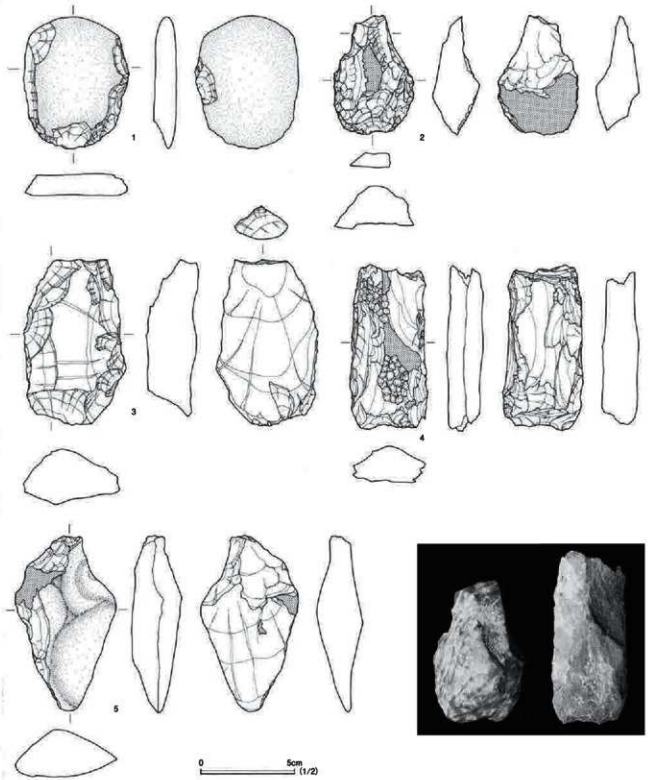
3　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：敲石　石材：凝灰岩　法量：長さ 85 ㎜，幅 40 ㎜，厚さ 27 ㎜　重量：105.0 g　備考：側面との稜部分及び破断面との稜部分を使用，被熱による変色（赤化）が認められる

4　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：敲石　石材：玢岩　法量：長さ 80 ㎜，幅 53 ㎜，厚さ 50 ㎜　重量：257.6 g　備考：側面及び端部の 2 箇所を使用，被熱による変色（赤化）と亀裂が認められる

5　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：磨石・敲石　石材：安山岩　法量：長さ 50 ㎜，幅 43 ㎜，厚さ 34 ㎜　重量：59.5 g

6　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　器種：磨石・敲石　石材：砂岩　法量：長さ 118 ㎜，幅 115 ㎜，厚さ 51 ㎜　重量：971.3 g　備考：裏面にガジリあり

7　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：磨



第 12 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（6）

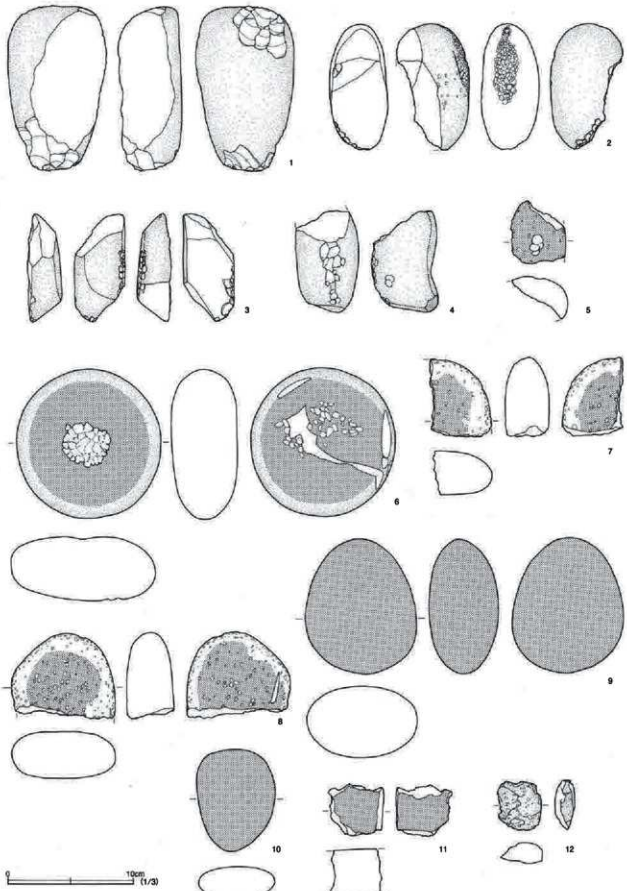
石　石材：安山岩　法量：長さ 62 ㎜，幅 48 ㎜，厚さ 35 ㎜　重量：142.5 g

8　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：磨石　石材：安山岩　法量：長さ 68 ㎜，幅 82 ㎜，厚さ 37 ㎜　重量：285.2 g　備考：裏面にガジリあり

9　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　器種：磨石　石材：砂岩　法量：長さ 107 ㎜，幅 88 ㎜，厚さ 55 ㎜　重量：717.6 g

10　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 1　器種：磨石　石材：ホルンフェルス　法量：長さ 81 ㎜，幅 62 ㎜，厚さ 27 ㎜　重量：201.0 g

11　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№ 2　器種：



第13図　岡田遺跡第19次調査区出土遺物（7）

石皿もしくは砥石　石材：砂岩　法量：長さ 41 ㎜，幅 44 ㎜，厚さ 37 ㎜　重量：103.3 g　備考：被熱による変色（赤化）が認められる

12　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№1　器種：砥石　石材：軽石　法量：長さ 39 ㎜，幅 35 ㎜，厚さ 16 ㎜　重量：3.7 g

第 14 図

1　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器　文様：口唇部付加条縄文（ＬＲ＋２Ｒ），平行沈線（半截竹管）

2　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器（大型）　文様：平行沈線（半截竹管）

3　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器（大型）　文様：平行沈線（半截竹管）

4　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器（大型）　文様：平行沈線（半截竹管）

5　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器　文様：平行沈線（半截竹管）

6　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器　文様：平行沈線（半截竹管）

7　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器（大型）　文様：平行沈線（半截竹管）

8　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器　文様：無節縄文（Ｒ），平行沈線（半截竹管）

9　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器　文様：付加条縄文（ＬＲ＋Ｒ），平行沈線（半截竹管）

10　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器（大型）　文様：反撚り縄文（ＲＲ），平行沈線（半截竹管）

11　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器　文様：無節縄文（Ｒ）

12　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：甕形土器か　文様：付加条縄文（ＬＲ＋２Ｒ）

13　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：甕形土器か　文様：単節縄文（ＬＲ）

14　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　文様：単節縄文（ＬＲ）もしくは付加条縄文（ＬＲ＋２Ｒ）

15　出土位置：2 住覆土　注記：2 住フク土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　文様：反撚り縄文（ＲＲ）

16　出土位置：2 住覆土　注記：2 住フク土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　文様：反撚り縄文（ＬＬ）か

17　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：甕形土器か　文様：単節縄文（ＬＲ）

18　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器（大型）か　文様：付加条縄文（ＬＲ＋Ｒ）か

19　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：甕形土器か　文様：付加条縄文（ＬＲ＋２Ｒ）　備考：器外面炭化物付着，器内面変色

20　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：甕形土器か　法量：底径 84 ㎜（残存率 24％）　文様：付加条縄文（ＲＲ×２Ｒ）か，底面布目痕　備考：器内面変色・炭化物付着

21　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　法量：底径 82 ㎜（残存率 15％）　文様：付加条縄文（ＬＲ＋Ｒ）か，底面布目痕

第 15 図

1　出土位置：4 トレ中央　注記：4 トレ中央　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：壺形土器（中・小型）　法量：口径 139 ㎜（残存率 40％），頸径 86 ㎜（残存率 9％）　文様：口唇部刻み（篦状工具），口縁部櫛描波状文（6 本櫛歯，下→上か），隆帯（指頭調整）

2　出土位置：4 トレ中央　注記：4 トレ中央　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：壺形土器（中型）　法量：胴径 163 ㎜（残存率 24％）　文様：櫛描文（4 本櫛歯），付加条縄文（Ｒ－Ｓ，Ｌ－Ｚ，原体ごとに施文）　備考：小粒の金雲母を極少量含む

3　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：壺形土器（大型）　法量：最大径 212 ㎜（残存率 13％）　文様：付加条縄文（Ｒ－Ｓ，Ｌ－Ｚ，下→上）　備考：器内外面に部分的な炭化物の付着

4　出土位置：4 トレ中央　注記：4 トレ中央　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：壺形土器（小型）　法量：胴径 136 ㎜（残存率 15％），底径 80 ㎜（残存率 63％）　文様：櫛描文（4 本以上櫛歯），付加条縄文（Ｒ×Ｒ，Ｌ×Ｌ，下→上），底面布目痕

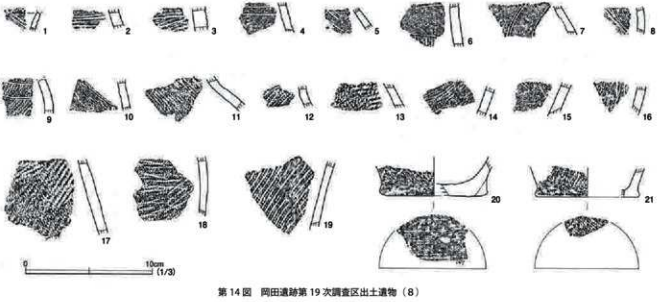
5　出土位置：2 住覆土　注記：2 住フク土　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：壺形土器（中・小型）　法量：底径 83 ㎜（残存率 16％）　文様：付加条縄文（Ｒ－Ｓ），底面布目痕

6　出土位置：4 トレ中央　注記：4 トレ中央　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：壺形土器（中・小型）　法量：底径 88 ㎜（残存率 21％）　文様：付加条縄文（Ｌ×Ｌ），底面布目痕　備考：金雲母を少量含む

7　出土位置：2 住覆土　注記：2 住フク土　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：壺形土器（中・小型）　法量：底径 78 ㎜（残存率 16％）　文様：付加条縄文（Ｒ－Ｓ），底面不明

8　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷№1　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：壺形土器（中・小型）　法量：底径 90 ㎜（残存率 12％）　文様：付加条縄文（Ｌ×Ｌ），底面布目痕

9　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代後期（十王台式）　器種：高坏形土器　法量：脚裾径 106 ㎜（残存率 9％）



第 14 図　岡田遺跡第 19 次調査区出土遺物（8）

文様：無文 (撫で調整)

10　出土位置：4 住覆土，4 トレ表土　注記：4 住フク土，4 トレ表土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：口唇部突起貼付・刻み (篦状工具)，口縁部櫛描文 (4 本櫛歯)

11　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：口唇部突起貼付・刻み (縄文原体)，口縁部櫛描文 (4 本櫛歯)

12　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：口唇部突起貼付・刻み (篦状工具)，口縁部櫛描文 (5 本櫛歯)

13　出土位置：4 トレ中央　注記：4 トレ中央　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：口唇部刻み (篦状工具)，口縁部櫛描文 (4 本櫛歯，上→下)　備考：口縁部最上段の積土痕が一部に残る

14　出土位置：2 住覆土　注記：2 住フク土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (大型)　文様：口唇部刻み (縄文原体)，口縁部櫛描文 (4 本櫛歯)

15　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種:壺形土器 (大型)　文様:口唇部刻み (篦状工具)，口縁部櫛描文 (5 本櫛歯，下→上)

16　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型，細頸形か)　文様：口縁部櫛描波状文 (3 本櫛歯，下→上)

17　出土位置：3 トレ表土　注記：3 トレ表土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：口唇部刻み (縄文原体)，口縁部櫛描文 (4 本櫛歯)，隆帯 (指頭調整)　備考：金雲母を多量に含む

18　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：口唇部刻み (縄文原体)，口縁部無文 (撫で調整)

19　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：口縁部無文 (撫で調整)，隆帯刻み (棒状工具)

20　出土位置：4 トレ中央　注記：4 トレ中央　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種:壺形土器 (中・小型)　文様:隆帯刻み (棒状工具)

21　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：隆帯 (指頭調整)，櫛描文 (4 本櫛歯)

22　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：櫛描文 (6 本櫛歯)　備考：上端は擬口縁か

23　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：櫛描文 (4 本櫛歯)　備考：上端は擬口縁か

24　出土位置：5 住覆土　注記：5 住フク土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：櫛描文 (5 本櫛歯)

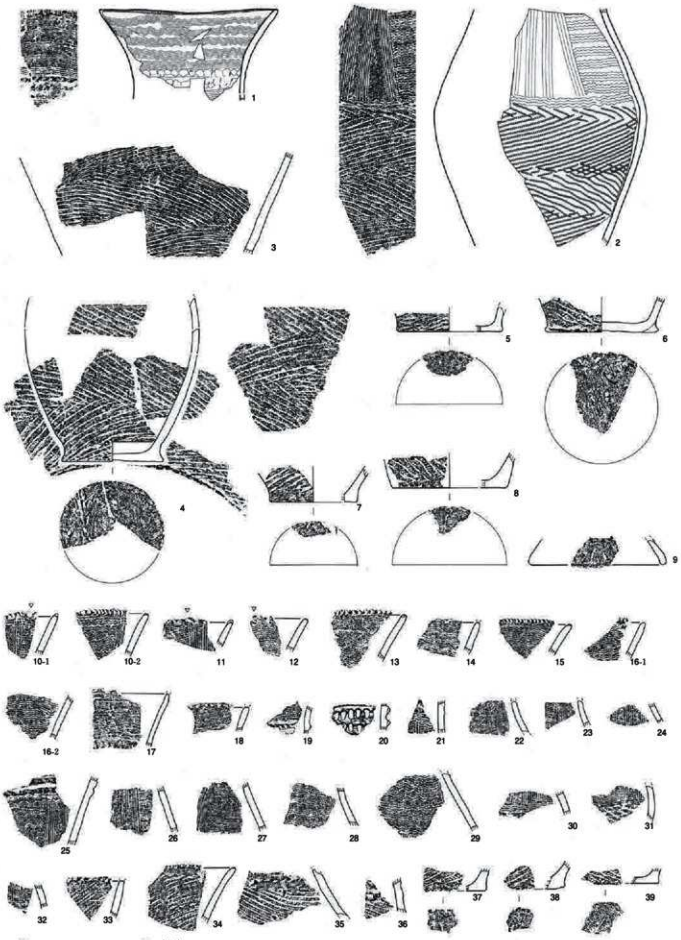
25　出土位置：4 トレ表土，4 トレ中央　注記：4 トレ表土，4 トレ中央　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (大型)　文様：隆帯 (指頭調整，爪痕)，櫛描文 (6 本櫛歯)

26　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：櫛描文 (5 本櫛歯，波状文下→上)

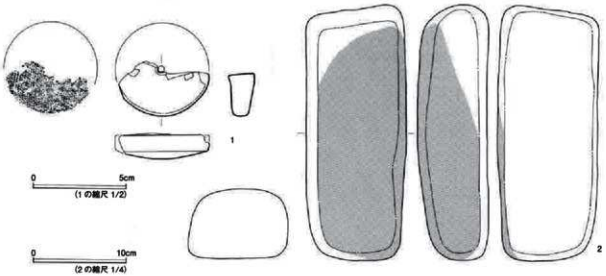
27　出土位置：5 トレ埋没谷　注記：5 トレマイボツ谷　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：櫛描文 (7 本櫛歯，波状文下→上)

28　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：櫛描文 (4 本櫛歯)

29　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：弥生時代



第15図　岡田遺跡第19次調査区出土遺物（9）



第16図　岡田遺跡第19次調査区出土遺物（10）

後期(十王台式)　器種：壺形土器(中・小型)　文様：櫛描文(5本櫛歯，波状文下→上)

30　出土位置：5トレ埋没谷　注記：5トレマイボツ谷　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(中・小型)　文様：櫛描文(6本櫛歯)

31　出土位置：5住覆土　注記：5住フク土　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(中・小型)　文様：櫛描文(5本櫛歯)，付加条縄文(R－S，L－Z，下→上)

32　出土位置：5住覆土　注記：5住フク土　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(中・小型)　文様：櫛描文(5本櫛歯)，付加条縄文(L－Z)

33　出土位置：4住覆土　注記：4住フク土　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(大型)　文様：口唇部縄文，付加条縄文(L R＋R)

34　出土位置：4トレ中央　注記：4トレ中央　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(大型)　文様：口唇部刻み(篦状工具)，付加条縄文(R－S)

35　出土位置：4トレ表土　注記：4トレ表土　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(大型)　文様：爪痕，付加条縄文(L×L)

36　出土位置：4トレ中央　注記：4トレ中央　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(大型)　文様：隆帯(指頭調整)，付加条縄文(L×L)　備考：金雲母を含む

37　出土位置：4住覆土　注記：4住フク土　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(中・小型)　文様：付加条縄文(R×R)，底面布目痕

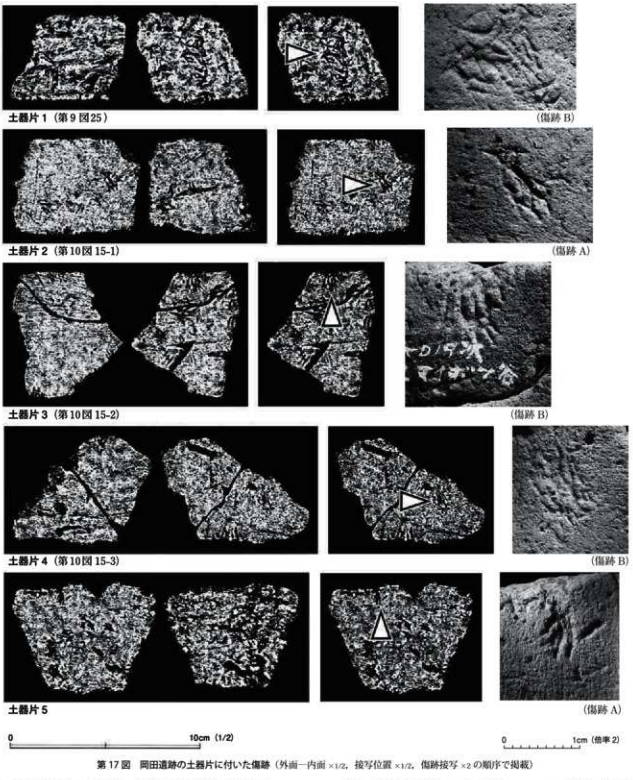
38　出土位置：4トレ表土　注記：4トレ表土　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(中・小型)　文様：付加条縄文(R－S)，底面布目痕

39　出土位置：5住覆土　注記：5住フク土　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器(中・小型)　文様：付加条縄文(L×L)，底面布目痕

第16図

1　出土位置：4トレ表土　注記：4トレ表土　時代時期：弥生時代後期(十王台式)　器種：土製紡錘車　法量：長さ49㎜，幅30㎜，厚さ13㎜，重量17.9ｇ，　文様：上面布目痕　備考：推定直径50㎜，推定孔径3.5㎜

2　出土位置：3トレ表土　注記：3トレ中央　時代時期：弥生時代後期(十王台式)と推定　器種：炉石　石材：砂岩　法量：長さ276㎜，幅108㎜，厚さ75㎜，重量4,077.8ｇ，　備考：被熱による変色(黒化)が認められる



第 17 図　岡田遺跡の土器片に付いた傷跡（外面―内面 ×1/2，接写位置 ×1/2，傷跡接写 ×2 の順序で掲載）

（3）岡田遺跡の土器片に観察された動物の舐り痕について

岡田遺跡の土器片　岡田遺跡から出土した縄文時代早期の条痕文土器には，動物により付けられたと考えられる傷跡が，表面に観察された破片がある。傷跡は，平行する２条が単位と推定されるものが多く，反復による集合が表面に窪みを生じさせている部分も見られた。まずは，傷跡が明瞭な５点の破片について，傷跡の位置と状態を報告する。傷跡の状態については，反復により残された条線の複合を傷跡Ａ，表面が窪むほどの集合を傷跡Ｂとして区別しておくことにする。（第 17 図）

土器片 1　長さ 48 ㎜，幅 64 ㎜，厚さ 8 ㎜の口縁部片。外面と内面に傷跡があり，内面の縁辺には破断面に及ぶ傷跡も見られる。外面は傷跡Ａ，内面には傷跡Ａ・

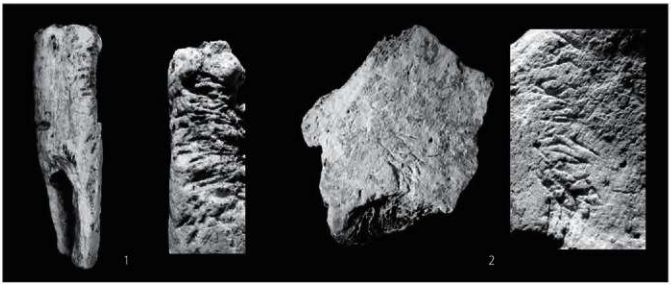


写真１　三反田蜆塚貝塚の骨片に付いた傷跡（骨片全体 ×1，傷跡接写 ×2 の順序で掲載）

Ｂがある。内面の中央近くには，最大長 33 ㎜，最大幅 14 ㎜の範囲に傷跡が分布し，その一部に傷跡Ｂが形成されている。

土器片２　長さ 53 ㎜，幅 69 ㎜，厚さ 11 ㎜の胴部片。外面と内面に傷跡があり，縁辺には破断面に及ぶ傷跡も見られる。両面とも傷跡Ａであり，外面の方に多い。

土器片３　長さ 69 ㎜，幅 59 ㎜，厚さ 12 ㎜の胴部片であり，土器片２と同一個体であったと推定される。外面と内面の縁辺から破断面に及ぶ傷跡が多く見られる。外面は傷跡Ａ，内面には傷跡Ａ・Ｂがある。傷跡Ｂは，内面上部の縁辺に形成されている。

土器片４　長さ 59 ㎜，幅 85 ㎜，厚さ 13 ㎜の胴部片であり，土器片２・３と同一個体であったと推定される。外面と内面に傷跡があり，内面の縁辺には破断面に及ぶ傷跡も見られる。外面は傷跡Ａ，内面には傷跡Ａ・Ｂが見られる。傷跡Ｂは，内面右下部に形成されている。

土器片５　長さ 61 ㎜，幅 77 ㎜，厚さ 11 ㎜の胴部片。外面と内面に傷跡があり，縁辺には破断面に及ぶ傷跡も見られる。両面とも傷跡Ａである。

以上の傷跡には，器面と破断面が作る角にかかるように付けられたものと，ほぼ平坦な器面に付けられたものとがあり，器面では，湾曲が異なる外面と内面のいずれにも観察された。平行する２条の長さは，4.0 ㎜から 5.0 ㎜の範囲に多く，5.9 ㎜を最大値として計測した。２条の幅は 2.0 ㎜で，１条の幅がそれぞれ 0.5 ㎜，条間の幅が 1.0 ㎜を典型と捉えた。１条の幅が 0.8 ㎜と計測された部分もあったが，これについては，単独か複合かを判断できていない。条の深さは，0.5 ㎜ほどに見える。

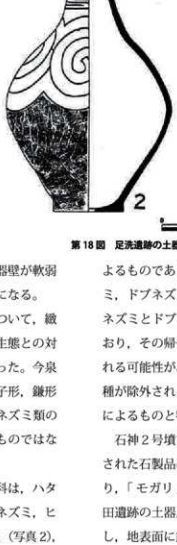
三反田蜆塚貝塚の骨片　同じような傷跡は，貝塚から出土した骨片にも観察され，傷跡の付いた骨片は，稀なものではない。ひたちなか市三反田蜆塚貝塚の調査で縄文時代中・後期の貝塚から検出された骨片の傷跡と，岡田遺跡の土器片の傷跡を比較してみる。（写真１）

骨片１　長さ 65 ㎜，幅 17 ㎜，厚さ 14 ㎜の骨片。管骨の骨幹部片である。丸みを帯びた三角形に近い断面形状の，底辺から角に相当する位置に傷跡が集中し，長さ 20 ㎜，幅 10 ㎜ほどの範囲が削られて窪む。これは，状態が傷跡Ｂ，位置は，器面と破断面が作る角に付けられた土器片の傷跡に似る。

骨片２　長さ 57 ㎜，幅 51 ㎜，厚さ 15 ㎜の骨片。頭蓋骨の一部であろうか，土器の外面と内面に相当するような湾曲を有した平坦な破片である。凸曲面に，長さ 27 ㎜，幅 9 ㎜の範囲で傷跡が並ぶ。これは，状態が傷跡Ａ，位置は，平坦な外面に付けられた土器片の傷跡に似る。

傷跡の平行する２条の長さは，5.0 ㎜ほどのものが多く，6.0 ㎜を最大値として計測した。２条の幅は 2.0 ㎜で，１条の幅がそれぞれ 0.5 ㎜，条間の幅が 1.0 ㎜を典型と捉えた。条の深さは，0.5 ㎜ほどに見える。つまり，傷跡の状態と位置，その計測値も土器片の傷跡によく一致している。また，２点の骨片を観察してみると，傷跡が比較的明瞭なのに対して，表面等が劣化していることに気付く。これは，廃棄された骨片が地表面に露出する状況で風化した後に，傷跡が付けられたことを推定させる。

写真２　クマネズミの頭骨標本
（2011 年那珂市採集）



第 18 図　足洗遺跡の土器に付いた傷跡（[井上 1959] より引用）

岡田遺跡の５点の土器片の焼成がやや不良で器壁が軟弱なことにも，共通した条件が認められることになる。

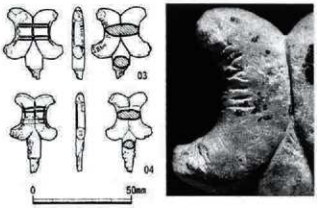
石神２号墳の石製品　このような傷跡について，緻密な観察と計測に基づき，動物の身体構造や生態との対応から，成因を考察したのが，今泉吉典であった。今泉は，千葉県石神２号墳から出土した立花，刀子形，鎌形などの石製品に付いた傷跡（第１９図）を「ネズミ類の歯痕」と同定し，それは「クマネズミ層」のものではないかと推定した。

関東地方の低地に生息する齧歯類のネズミ科は，ハタネズミ亜科のハタネズミ，ネズミ亜科のアカネズミ，ヒメネズミ，カヤネズミ，ハツカネズミ，クマネズミ（写真２），ドブネズミの７種に限られる。「ネズミ類が堅いものをかじる際には，２本の上門歯で物を固定し，下顎門歯を前上方に押し出してけずる。そのため深いかじりきずは，主として下顎門歯によってつけられ」，「ネズミ亜科のものでは，左右の下顎骨が前端部で相接する部分が極めて小さく，殆んど点と言ってよいほどである。そのため２本の下顎門歯はかなり自由に開閉」し，平行する２条の傷跡が同時に付くことになる。この他，傷跡の長さと「上下顎の門歯先端間の最大距離」の関係，傷跡と下顎門歯の幅の関係について計測値を示しながら，「石製品にしるされたきずは，クマネズミかドブネズミ，すなわちクマネズミ属 Rattus のかじりきずと思われる」と結論付けたのである。

今泉の根拠に従えば，岡田遺跡の傷跡もネズミ亜科によるものであり，計測値からは，アカネズミ，クマネズミ，ドブネズミの３種が候補となり得る。このうちクマネズミとドブネズミは，「史前帰化動物」と考えられており，その帰化の時期が明確になれば，候補から除外される可能性がある。将来にクマネズミとドブネズミの２種が除外されるならば，岡田遺跡の傷跡は，アカネズミによるものと特定されることになるかもしれない。

石神２号墳では，古墳時代中期の埋葬施設内から検出された石製品に，ネズミの齧り痕が認められたことにより，「モガリ」へと考察が進められた [沼沢 1977]。岡田遺跡の土器片については，当時に，土器が破片に分割し，地表面に露出した状態にあったことまでが推定される。土器片等を齧るのは，門歯の伸び過ぎを調整する本能によるもので，その食性に基づく誘引物が存在したことを想定してみよう。それが，堅果類など植物の実であったなら遺跡が選地された環境条件を，動物の遺骸であったなら遺跡の調査地点には，貝殻の集積はみられないものの貝塚のような性格を想い描くことができそうである。

足洗遺跡の土器　茨城県においては，1959 年に井上義安が，土器の表面の傷跡を報告している。北茨城市足洗遺跡から出土した弥生時代中期の壺形土器に，「文様を施して焼いたあとで，なにか特殊の器具をあててひきかいたらしいように思われ，土器の表面あるいは裏面のいたるところに残っている」という記述と拓影図（第 18 図）が示されている。「土器の表面に鼠と覚しき歯痕



第 19 図　石神 2 号墳の石製品に付いた傷跡
（[沼沢 1977] より引用）

が遺るもののあること」という八幡一郎『日本史の黎明』を引用しながらも，井上は，「もしそうだと仮定して土器面の傷痕と鼠の嚙歯痕とを比較してみると，あきらかにことなっていることがわかるし，傷痕を有する土器がいわゆる甕棺遺跡から出土して，農耕生活をいとなんでいた住居の遺跡にそれらしいものが発見されないという事実は，八幡氏の所説にとっていちじるしく不利な点であるといわなければならない」という根拠で退け，傷跡は，「器物のある部分をことさらに破毀したり，あるいはきずつけたりるような行為」の痕跡と捉えた。件の壷形土器は，井上が乳幼児の再葬墓を想定した「壷棺」であり，その「行為」は「葬制」の一部と考えられている。

しかしながら，「あきらかにことなっている」と断定はされても，その観察の方法と結果の詳細は提示されていない。拓影図から窺う傷跡は，傷跡Aに相当し，ネズミの齧り痕のように見える。足洗遺跡の小型壷形土器については，再葬のために遺骸を収納して埋設された容器ではなく，実は土壙墓の上位に供献されたものであったと考えられることを既に指摘している［鈴木 2010］。また，土器棺も含めて，埋葬に利用された土器は，生活用具からの転用である。土器が生活用具として使用されていた期間にも，ネズミが齧ることはできたはずであり，土壙墓の上位から検出される土器が，地表面に据え置かれていたものであるならば，転用後にも，その機会はあった。破断面に及ぶ傷跡が観察されることになれば，土器は土壙墓上の地表面に供献されていたと推定する根拠となるであろう。

ネズミの齧り痕は，環境に生息する動物が残した現象ではあるが，石神 2 号墳の考察が実践して見せたように，当時の人々の行為を復元する根拠となり得る。籾圧痕のように，注意が喚起されれば，報告例も増加することになろう。本稿は，そのための覚書である。

本稿の成立にあたり，小宮　孟氏，矢野徳也氏，山崎晃司氏（茨城県自然博物館），栗田則久氏・鶴城今日子氏（千葉県教育振興財団）に，お世話とご指導をいただいた。

註 1　「上下顎の門歯先端間の最大距離」は，カヤネズミ「2.5 ㎜前後」，ヒメネズミ「3.5 ㎜前後」，ハツカネズミ「3.5 ㎜」，アカネズミ「5.5 ～ 6 ㎜」，クマネズミ「6.5 ～ 7.0 ㎜」，ドブネズミ「7.0 ～ 7.5 ㎜前後」，「下顎門歯の幅」は，カヤネズミ「0.40 ㎜前後」，ヒメネズミ「0.5 ～ 0.6 ㎜」，ハツカネズミ「0.4 ～ 0.5 ㎜」，アカネズミ「0.5 ～ 0.7 ㎜」，クマネズミ「0.9 ～ 1.1 ㎜」，ドブネズミ「1.0 ～ 0.3 ㎜」と記載されている［今泉 1977］。

註 2　三反田蝦塚貝塚からは，「ネズミ科　Family Muridae」の骨が検出されているが，「属・種不明　Gen.et sp.indet」と記載されている［金子・忍沢・野崎・中沢 1987］。

参考文献

井上義安　1959　「北茨城市足洗における甕棺調査の概報」『古代」第 32 号　13-27 頁

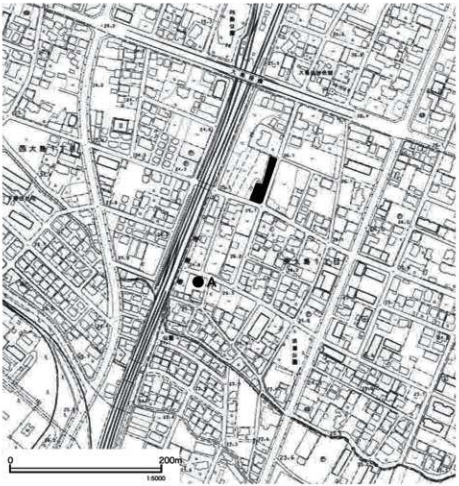
今泉吉典　1977　「千葉市石神 2 号墳出土石製品にしるされた動物の歯痕について」『東寺山石神遺跡』 512-516 頁　財団法人千葉県文化財センター

金子浩昌・忍沢成視・野崎哲令・中沢道彦　1987　「三反田蝦塚貝塚出土の動物遺体について」『茨城県勝田市三反田蝦塚貝塚　―動物遺存体調査報告書―』24-43 頁　勝田市教育委員会

鈴木素行　2010　「続・部田野のオオツタノハ　―茨城県域における弥生時代「再葬墓後」の墓制について―」『古代』第 123 号　1-51 頁

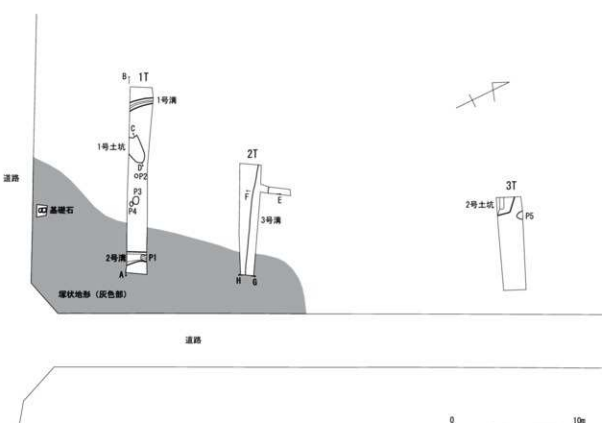
沼沢　豊　1977　「合葬の問題」『東寺山石神遺跡』 139-154 頁　財団法人千葉県文化財センター

八幡一郎　1953　『日本史の黎明』有斐閣全書　株式会社有斐閣

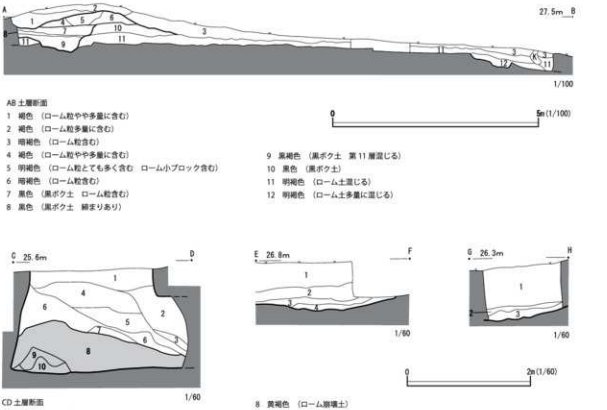


第 20 図　東石川内後遺跡の調査地点

写真 3　大島墓地における石仏・墓石類の状況
（第 20 図 A 地点）



第 21 図　東石川内後遺跡第 1 次調査区



第22図 東石川内後遺跡第1次調査区土層断面

3 東石川内後遺跡

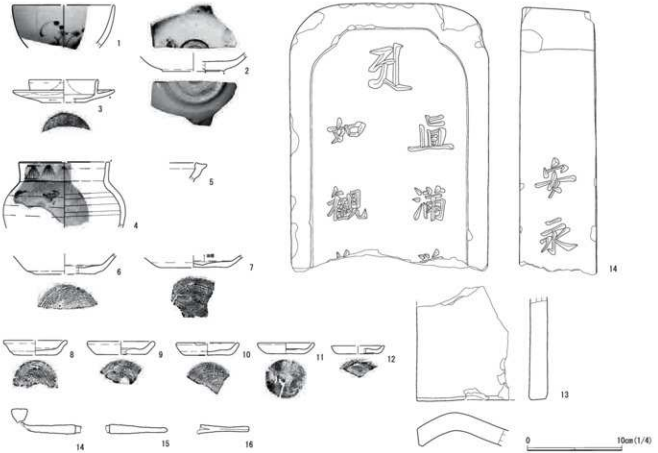
（1）第1次調査報告

調査経緯 東大島1丁目29-8に所在する土地について白井克夫氏より須恵器片等が散布している旨の報告を受けた。当地は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であり新規発見の遺跡である可能性があり内容を確認する必要があるため，ひたちなか市文化・スポーツ振興公社に試掘・確認調査について依頼した。試掘調査は3月9日～3月25日にかけて行われた。

調査結果 調査地は，中丸川から北に200 mほど離れた地点に位置する。調査区の現状は，調査区北半部は平坦な畑であったが，南半部は低い土塁状の盛土が認められた。盛土状の地形は東側の道路に沿って南北に伸びており，道路からは約2 mほどの高さを持つ。盛土状地形の付近は雑木林であった。盛土状地形の付近は，地元の方に伝えられる話では，かつて墓場であったとのことであり，南側の道路を拡張整備した際に，墓石や石仏類が多数出土したそうである。現在それらの墓石類は，調査地から南西120 mほどの線路脇にある共同墓地にまとめられているとのことであった。共同墓地に行ってみたところ，それらしい石仏や墓石類がまとまって安置されているのが確認できた。

なお，現地で調査をしていた3月11日（金）の午後，東日本大震災に見舞われ，その際に土坑が一部崩壊した。その後大きな余震が続いていたため，調査は一時中断となった。3月後半になり比較的落ち着いてきてから，調査区全体図等の図面を作成し，調査を撤収したのであった。

試掘調査は，調査対象地内に3本のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2～0.6 mを測る。調査の結果，調査区南部に存在



第 23 図　東石川内後遺跡第 1 次調査区出土遺物

する塚状の地形は，人為的な盛土により形成されたものと確認された。ただし形成時期は不明である。調査区から溝跡が 3 条確認されているが，いずれも時期は不明である。1 号土坑は時期不明であるが，一部試掘した結果，深さ 1.7 mほどの地下式構造になるようであることから考えて，地下式坑の可能性がある。全体形は不明である。2 号土坑は，形状および覆土の状況からみて，縄文時代の落し穴ではないだろうかと思われる。

出土遺物　表土から，陶磁器類，かわらけ，煙管，桟瓦，墓石が出土している。

墓石 14 は下半部を欠失する資料であり，側面に「安永」と刻まれる。安永年間は 1772 年から 1781 年の 18 世紀後半にあたり，当墓標は当時一般的な墓標形式であった，「櫛形」［吉澤悟 2001「石塔の構成と分析」『近畿地方における中・近世墓地の基礎的研究』］・「円頂方形式」［池上悟 2003「近世墓石の諸相」『立正大学人文科学研究所年報』40］に該当する。奈良県新庄町平岡極楽寺墓地における銘文の整理結果によると，「寛永年間以前，17 世紀前葉よりも古くは一つの石塔に対して 1 人の戒名を刻むのが主流であった。<…> 17 世紀中葉頃から次第に複数名の戒名のものが卓越してくる。<…>記銘方式は，石塔の正面に男女 1 組の戒名を刻む物が典型的<…>大正期を境にして，正面に「先祖累代之墓」や「○○家の墓」といった銘を刻み，家の単位を強く意識した石塔が主流となっていく。戒名は側面に列記されるようになり，石塔銘の主体からおりてしまう。」［吉澤 2001］という変遷をたどることが明らかにされている。当遺跡出土の墓石銘も，頭部に胎蔵界大日如来の種子アを刻み，その下に複数名の戒名を持つものであり，当時一般的な銘文の形式をとっている。石材は，いわゆる「町屋石」の良品が使用されている。詳しくは以下の矢野徳也氏の観察報告を参照いただきたい。

出土墓石の「町屋石」について

岩石名：蛇紋岩

含有鉱物：滑石，蛇紋石，角閃石（透閃石～アクチノ閃石），不透明鉱物

説明：石材名「町屋石（まちやいし）」として知られるもので，明色の地に濃緑色の葉片状の模様が浮かび上がる独特な外観をしており，常陸太田市町屋町付近の多賀山地に産する。同様のものは国内では他に九州で 1

地点が知られるのみである。「町屋石」は橄欖岩を源岩とした変成岩だが，大型の橄欖石結晶が蛇紋石化したものが滑石を主とする淡色の部分を地として美しい模様をつくっている特殊な構造を持つ岩石である。美しい模様を出す大型の橄欖石結晶の成因については確定的な定説はない。

この品は地となる部分の滑石の純度が高く，わずかに角閃石類がみられるのみで，帯緑白色である。葉片状部は竹葉状～霜降り状を呈しており緑色がやや淡いが，地色との対比も良い良品である。

「町屋石」は比重が高く重量があり，また，岩質が緻密で線刻が美しく仕上がり，かつ比較的軟質のため加工がし易い。しかし産出量が希少なため珍重されており，明治以前は水戸藩が採掘権を専有していたという。明治以降は地元の採掘組合の管理で採掘されたが，建築用に向かず，墓石や灯籠，石碑などの利用であったため，堅牢な花崗岩の採掘が笠間市や筑波山周辺で盛んになると，資源の枯渇とともに採掘が先細りとなり，1980 年代頃には採掘を終えている。

(以上の石材の説明は矢野徳也氏による。)

遺物説明

1　出土位置：ピット 3 覆土　注記：覆土　材質：磁器　器種：碗　残存：体部 40%　法量：口径（10.6）　技法等：外面染付文様。胎土中に黒色細粒がみられる。

2　出土位置：2 トレ表土　注記：2 トレ表土　材質：磁器　器種：皿　残存：底部 30%　法量：高台径（6.4）　技法等：内外面染付文様

3　出土位置：基礎石付近表面採集　注記：表採　材質：陶器　器種：灯明受皿　残存:40%　法量:受皿部径（7.1），台部径（10.6），底径（4.6），器高（7.1）　色調：素地橙褐色　技法等：底部外面回転ヘラ削り。内面および口縁部外面に薄く鐵釉。台部口縁と受皿部に部分的に油煙付着。

4　出土位置：表面採集　注記：表土　材質：陶器　器種：壺　残存：口縁部 20%　法量：口径（9.3）　色調：素地灰褐色　技法等：外面染付文様。貫入顕著

5　出土位置：表面採集　注記：表採　材質：陶器　器種：鉢　残存：口縁部片　色調：素地明灰色　技法等：内外面に灰釉が厚くかかり，貫入が顕著に入る

6　出土位置：1 号土坑覆土　注記：SK1 覆土　材質：土師器　器種：皿　残存：底部外周 40%　法量：底径（6.5）　色調：橙褐色　技法等：回転糸切り

7　出土位置：1 号土坑覆土　注記：SK1 覆土　材質：土師器　器種：皿　残存：底部 30%　法量：底径（6.8）　色調：底部内外面褐色。体部外面暗褐色。体部内面黒色。　技法等：回転糸切り。体部内面油煙付着。

8　出土位置：表面採集　注記：表採　材質：土師器　器種：小皿　残存：底部 60%，体部 30%　法量：口径（6.4），器高 1.6，底径（4.6）　色調：明橙色　技法等：回転糸切り

9　出土位置：表面採集　注記：表土　材質：土師器　器種：小皿　残存：30%　法量：口径（6.8），器高 1.4，底径（5.2）　色調：褐色　技法等：回転糸切り。底部中央に径 8mm ほどの穿孔かあ。

10　出土位置：ピット 3A 覆土　注記：1 トレ P3A 覆土　材質：土師器　器種：小皿　残存：40%　法量：口径（6.3），器高 1.3，底径（4.6）　色調：橙褐色　技法等：回転糸切り。口縁部に油煙が 1 ヵ所付着することから，燈明皿として用いられている。

11　出土位置：基礎石付近表土中　注記：石 1 付近，表土　材質：土師器　器種：小皿　残存：完形（3 片接合）　法量：口径 5.8，器高 1.2，底径 3.8　色調：褐色　技法等：回転糸切り

12　出土位置：1 トレンチ表土　注記：1 トレ表土　材質：土師器　器種:小皿　残存:30%　法量:口径（5.4），器高 0.9，底径（3.9）　色調：褐色　技法等：回転糸切り

13　出土位置：2 トレンチ表土　注記：2 トレ表土　材質：瓦　種類：桟瓦　残存：屈曲部片　法量：厚さ 1.8　色調：表面銀黒色。上面及び側面の一部に黒色処理残存。断面暗灰色。

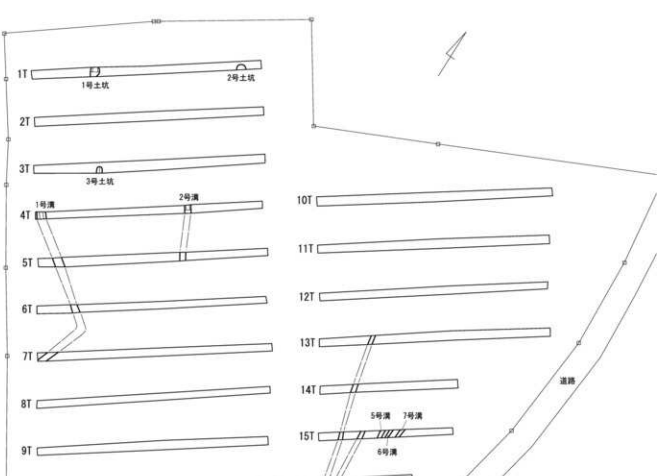
4　金上向山遺跡

（1）過去の調査

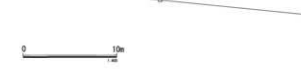
金上向山遺跡においては，平成 14 年 6 月に第 1 次調査が実施され，古墳時代後期の住居跡東壁の一部が検出されている。調査区からは 8 世紀および 9 世紀の遺物も出土していることから，周辺に当該期の住居跡が存在するものと思われる。

（2）第 2 次調査報告

第 24 図　金上向山遺跡の調査地点



第 25 図　金上向山遺跡第 2 次調査区



第 26 図　金上向山遺跡第 2 次調査区出土遺物（1）

第 27 図　金上向山遺跡第 2 次調査区出土遺物（2）

調査経緯　金上向山 636-1 の一部 638-1,639 に所在する土地について，「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。現地は金上向山遺跡の範囲内に当たっており，調査したところ過去に開発行為がない土地であったため教育委員会は建築・土木工事を行なう際は，事前に試掘調査を必要とする旨の回答を行なった。これに従い個人住宅の建築に伴う文化財保護法 93 条 1 項に基づく届出が提出されたため，茨城県教育委員会にそれを進達するとともに，試掘調査についてひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に依頼した。試掘調査は 4 月 26 日～ 5 月 14 日にかけて行われた。

なお，遺構・遺物ともに検出されなかったため，本調査の対象とはならなかった。

調査結果　調査地は那珂川低地から北方へ入り込む谷の縁辺部から 250 m ほど離れた台地平坦面に立地する。調査時は畑地であった。調査対象地内に 16 本のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 ～ 0.9 m を測る。調査の結果，幅 0.5 ～ 0.7 m を測る溝跡が 7 条と，土坑が 3 基確認された。

各遺構の時期は不明である。各溝跡の深さは，1号溝が34ｃｍ，2号溝が7ｃｍ，3号溝が31ｃｍ，4号溝が26ｃｍを測る。5～7号溝は確認のみにとどめたため深さは不明であるが，その覆土は黒ボク土を主体とするものであった。各土坑の深さは，1号土坑が27ｃｍ，3号土坑が15ｃｍを測る。2号土坑は確認のみのため深さは不明であるが，覆土中に多量の灰を含んでいた。

出土遺物　表土からの出土遺物は，縄文土器，土師器，須恵器，近世以後の陶磁器，火打石になる可能性がある石器等である。遺物の出土は少量であった。

遺物説明

第26図

1　出土位置：11トレ　注記：11T　時代時期：縄文時代中期　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

2　出土位置：14トレ　注記：14T　時代時期：縄文時代中期　器種：深鉢形土器　文様：沈線文（半截竹管）

3　出土位置：7トレ　注記：7T　時代時期：縄文時代中期　器種：深鉢形土器　法量：底径42ｍｍ（残存率77％）　文様：無文（磨き）

第27図

1　出土位置：12トレンチ表土　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部25％　法量：底径（6.4）　色調：灰色　胎土：礫（白少，白透少），骨針微量　技法等：回転ヘラ切り後ヘラ記号。焼成硬質。

2　出土位置：4トレンチ表土　材質：石　器種：火打石　残存：完形　法量：2.4×2.0×2.1，重量14.6g　色調：白色主体，一部灰色　技法等：稜部が部分的に磨滅する。

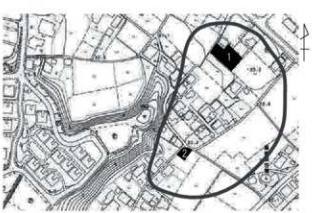
5　飯塚前遺跡

（1）過去の調査

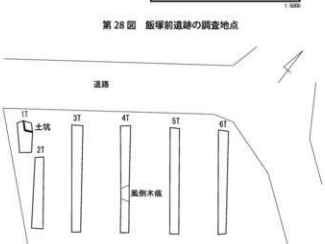
飯塚前遺跡においては，平成9年1月に第1次調査が実施され，時期不明の溝や土坑が検出されている。調査区からは縄文土器・弥生土器および9世紀の遺物も出土していることから，周辺に当該期の住居跡が存在するものと思われる。なおこの時の調査は『内出遺跡発掘調査報告書』として刊行されているが，遺跡範囲からみて飯塚前遺跡として扱うべきであるため，本稿ではこれを第1次調査と判断した。

（2）第2次調査報告

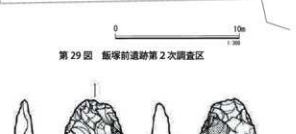
調査経緯　三反田字新平3254-1の一部に所在する土地について「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。現地は飯塚前遺跡の範囲内に当たり，現地踏査により土師器片等の遺物の散布を認めた。教育委員会は建築・土木工事を行なう際は事前に試掘調査を必要とする旨の回答を行なった。続



第28図　飯塚前遺跡の調査地点



第29図　飯塚前遺跡第2次調査区



第30図　飯塚前遺跡第2次調査区出土遺物

いて，個人住宅の建築に伴う文化財保護法93条1項に基づく届出が提出されたため，茨城県教育委員会にそれを進達するとともに，試掘調査についてひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に依頼した。試掘調査は6月7日～9日にかけて行われた。

不正方形の土坑が検出されたが遺物は検出されず慎重工事による対応となった。

調査結果　調査地は，台地縁辺部から30ｍほど離

れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地である。調査対象地内に６本のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 ～ 0.7 mを測る。調査の結果，土坑１基，風倒木痕１基が検出された。土坑からの出土遺物はなく時期不明である。

出土遺物　表土から，縄文土器，土師器，須恵器，陶磁器，石器が出土した。遺物量は少量である。

遺物説明

1　出土位置：1トレ表土　注記：1トレ表土　器種：石鏃未成品　石材：メノウの集合岩　法量：長さ 26 ㎜，幅 21 ㎜，厚さ 8 ㎜　重量：3.4 g　備考：縁部分は光沢のある剥離面

6　西中根遺跡

（1）過去の調査

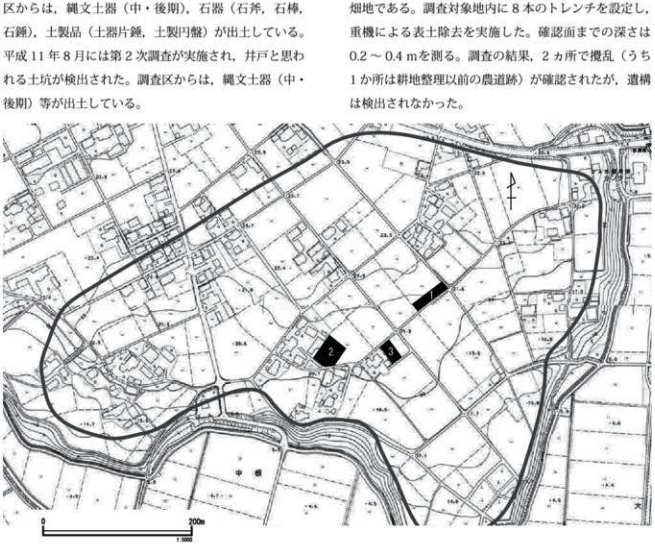
西中根遺跡においては，平成５年２月に第１次調査が実施され，土坑や粘土採掘坑が検出されている。調査区からは，縄文土器（中・後期），石器（石斧，石棒，石錘），土製品（土器片錘，土製円盤）が出土している。平成 11 年８月には第２次調査が実施され，井戸と思われる土坑が検出された。調査区からは，縄文土器（中・後期）等が出土している。

（2）第３次調査報告

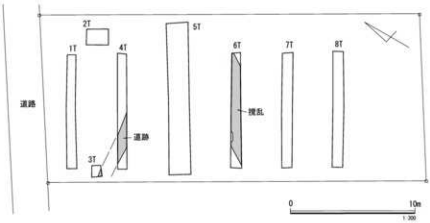
調査経緯　大字中根字城之内 5018 番１に所在する土地について「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。現地は西中根遺跡の範囲内に当たり，現地踏査により土師器片等の遺物の散布を認めたため，教育委員会は建築・土木工事を行なう際は事前に試掘調査を必要とする旨の回答を行なった。続いて，個人住宅の建築に伴う文化財保護法 93 条１項に基づく届出が提出されたため，茨城県教育委員会にそれを進達するとともに，試掘調査についてひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に依頼した。試掘調査は６月 16 日～ 22 日にかけて行われた。

遺構は検出されなかったため，本発掘調査には至らなかった。

調査結果　調査地は，台地縁辺部から 100 mほど離れた地点に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は畑地である。調査対象地内に８本のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.2 ～ 0.4 mを測る。調査の結果，２ヵ所で攪乱（うち１か所は耕地整理以前の農道跡）が確認されたが，遺構は検出されなかった。



第 31 図　西中根遺跡の調査地点



第 32 図　西中根遺跡第 3 次調査区

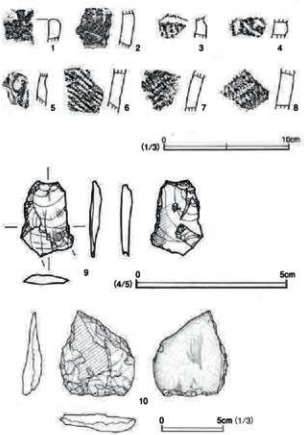
第 4 表　西中根遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1992	勝田市教委	本調査	土坑 2, 粘土採掘坑 1	1
2	1999	市教委	本調査	土坑 1	2

文献

1　平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書

2　平成 11 年度市内遺跡発掘調査報告書



第 33 図　西中根遺跡第 3 次調査区出土遺物

出土遺物　表土より縄文中期土器片や石器が少量出土した。

遺物説明

1　出土位置：6 トレ表土　注記：6 トレ表土　時代時期：縄文時代中期　文様：無文　備考：胎土に金雲母を多量含む

2　出土位置：表採　注記：表採　時代時期：縄文時代中期　器種：深鉢形土器　文様：沈線文

3　出土位置：表採　注記：表採　時代時期：縄文時代中期 (加曽利 E 式)　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文 (RL)

4　出土位置：表採　注記：表採　時代時期：縄文時代中期 (加曽利 E 式)　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，縄文 (原体不明)

5　出土位置：5 トレ表土　注記：5 トレ表土　時代時期：縄文時代中期 (加曽利 E 式)　器種：深鉢形土器　文様：沈線文

6　出土位置：6 トレ表土　注記：6 トレ表土　時代時期：縄文時代中期　器種：深鉢形土器　文様：単節縄文 (RL)

7　出土位置：6 トレ表土　注記：6 トレ表土　時代時期：縄文時代中期　器種：深鉢形土器　文様：単節縄文 (LR)　備考：胎土に金雲母を多量含む

8　出土位置：4 トレ表土　注記：4 トレ表土　時代時期：縄文時代中期　器種：深鉢形土器　文様：単節縄文 (LR)

9　出土位置：表採　注記：表採　器種：削器　石材：黒曜石　法量：長さ 24.5 ㎜，幅 17 ㎜，厚さ 4 ㎜　重量：1.6 g

10　出土位置：6 トレ表土　注記：6 トレ表土　器種：打製石斧　石材：角閃石片岩　法量：長さ 71 ㎜，幅 61 ㎜，厚さ 13 ㎜　重量：60.6 g　備考：上部を欠損する

7　三反田新堀遺跡

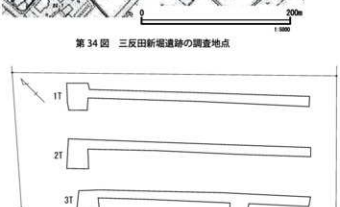
(1) 過去の調査

三反田新堀遺跡では，これまで 15 次の調査が実施されている。第 2 次調査においては，弥生時代中期足洗式期の住居跡 1 基が中丸川流域で初めて調査された。また第 10 次調査においては平安時代の住居跡が 2 基調査された。そのうち第 2 号住居跡竈内からは，イネをはじめとする複数種の炭化種実が検出されているが，現在のところ未同定となっている。

(2) 第 16 次調査報告

調査経緯　三反田新堀 5173 番 2 に所在する土地について，埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。現地は三反田新堀遺跡の範囲内に当たっており，教育委員会は建築・土木工事を行なう際は事前に試掘調査を必要とする旨の回答を行なった。つづいて個人住宅の建設に係る文化財保護法

第 34 図　三反田新堀遺跡の調査地点



第 35 図　三反田新堀遺跡第 16 次調査区

93 条 1 項に基づく届出が提出されたため，茨城県教育委員会にそれを進達するとともに，試掘調査を実施した。試掘調査は 8 月 3 日から 6 日にかけて行われた。

遺構は検出されず慎重工事による対応となった。

調査結果　調査地は，台地縁辺部から 100 m ほど離れた地点に位置し，地形は北東方向に緩く下がっていく緩傾斜地である。調査時は畑地であった。調査対象地内に 3 本のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 ～ 0.5 m を測る。調査の結果，遺構・遺物は検出されなかった。

8　磯崎東古墳群

（1）過去の調査

磯崎東古墳群では，これまで 7 次の調査が実施されている。ホテルニュー白亜紀建築に伴う第 1 次調査においては，2 段の葺石をもつ帆立貝式古墳 1 基（6 世紀前半），珠文鏡を出土した円墳 1 基（5 世紀後半）が調査された。第 2・3 次調査では，石棺 2 基，横穴式石室 1 基が調査されたようであるが，報告書未刊のため詳細は明らかではない。第 4 次調査においては，自然石を積んだ横穴式石室の一部が調査されたが遺物は出土しなかった。第 5 次調査においては円墳の周溝の一部が調査され，7 世紀第 3 四半期に位置づけられる須恵器平瓶が出土している。第 7 次調査は，海岸部の崖に長軸 1.5m ほどの小型の石棺が露出していたため平成 23 年 4 月に実施されたものである。人骨以外の遺物は無かった。

第 5 表　三反田新堀遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1984	勝田市教委	試掘調査	なし	1
2	2004	市教委	試掘調査	住居跡 1，溝 1	2
3	2005	市教委	試掘調査	溝 1，土坑 1	3
4	2005	市教委	試掘調査	溝 1，土坑 1	3
5	2006	市教委	試掘調査	なし	4
6	2007	市教委	試掘調査	なし	5
7	2008	公社	試掘調査	溝 1，ピット 3	6
8	2008	公社	試掘調査	溝 2	6
9	2008	公社	試掘調査	住居跡 2，溝 1	6
10	2008	公社	本調査	住居跡 2，溝 1	6
11	2008	公社	試掘調査	なし	6
12	2008	市教委	試掘調査	なし	6
13	2009	公社	試掘調査	溝 2	7
14	2010	公社	試掘調査	溝 2，土坑 1	8
15	2010	公社	試掘調査	住居跡 1，溝 1	8

文献
1　昭和 59 年度市内遺跡発掘調査報告書　2　平成 16 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　平成 17 年度市内遺跡発掘調査報告書　4　平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書
5　平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書
6　平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
7　平成 21 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
8　平成 22 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

（2）第 8 次調査報告

調査経緯　磯崎町 4598-1 に所在する市立磯崎小学校は東日本大震災の影響で建物が損壊し使用できないため校庭に仮校舎を建築することとなった。当地は磯崎東古墳群にあたっており，担当課より「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。育委員会総務課文化振興室は建築・土木工事を行なう際は事前に試掘調査を必要とする旨の回答を行なった。これを受けて担当課より文化財保護法 93 条 1 項に基づく届出が提出されたため，茨城県教育委員会にそれを進達するとともに，試掘調査についてひたちなか市

第 36 図　磯崎東古墳群の調査地点

第 6 表　磯崎東古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1989	調査会	本調査	古墳 2	1
2	1990	那珂湊市教委	本調査	石棺 2	―
3	1991	調査会	本調査	横穴式石室 1	―
4	1995	市教委	本調査	石棺 1	2
5	2004	市教委	試掘調査	周溝 1	3
6	2007	市教委	試掘調査	なし	4
7	2011	市教委	試掘調査	石棺 1	―

文献
1　那珂湊市磯崎東古墳群
2　平成 7 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　平成 16 年度市内遺跡発掘調査報告書
4　平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書

生活・文化・スポーツ公社に依頼した。試掘調査は 8月30日～ 9 月 24 日にかけて行われた。

遺構が検出されたため本発掘調査による対応となった。

調査結果　調査地は，太平洋を望む台地縁辺部から 120 mほど離れた地点に位置する。地形は現状が磯崎小学校敷地内であるため平坦な造成地となっていた。調査対象地は，校舎前の花壇部分および校舎寄りの校庭の一部，そして敷地西側の植樹地域に及ぶ。調査対象地の面積は約 2,040 ㎡と広かったこともあり，調査対象地内に 14 本のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 ～ 0.9 mを測る。

調査の結果，小型の石室を 4 基（第 1 ～ 4 号石室），及び横穴式石室を持つ古墳を 1 基（第 1 号墳）確認した。小型の石室は試掘段階では「石棺」として扱っていたが，その後 2011 年 12 月から実施された本調査により小型の横穴式石室であることが判明したため，今回の報告書では石室として扱っている。また第 2 号石室は，試掘段階では「第 2 号石棺」と「第 5 号石棺」の二つの石棺と捉えていたが，これも本調査により，横穴式石室の前庭部を石棺と誤認していたことが明らかとなったため，今回の報告ではまとめて第 2 号石室として扱った。

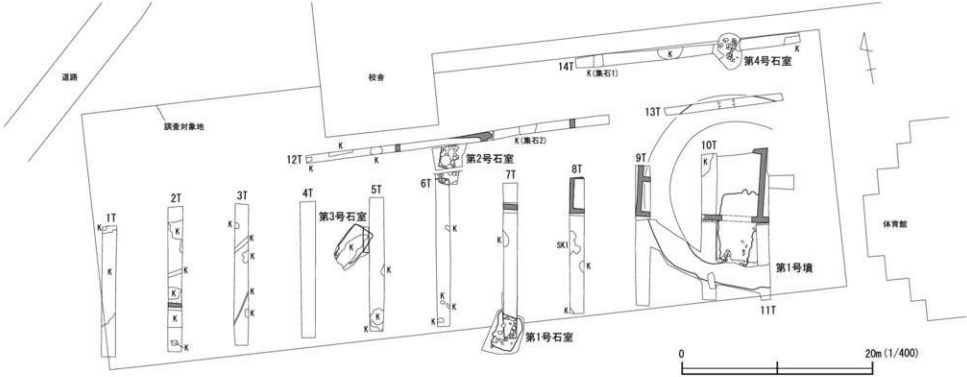
第 1 号石室は，玄室規模が確認面で縦 2.2 m，横 0.7 mを測る。石室周囲には，ローム土が混じる覆土をもつ，黒色表土を掘り込むプランが認められ，これが石室の掘形になると思われた。表土を掘り込んだ土坑内に石室を設置したことがわかる。同じような掘形痕跡は，第 2 号石室や第 3 号石室でも認められている。第 1 号石室の前庭部確認面の西方からは，同様なレベルで須恵器片が散在して出土しており，そのなかにはフラスコ型長頸瓶の頸部片が含まれていた。

第 2 号石室は，遺構を排水溝が横切っていたため玄室規模がやや不明瞭であったが，確認面で縦 2.2 m，横 0.5 mほどかと思われた。前庭部覆土より瓶類の頸部と思われる須恵器片が出土した。

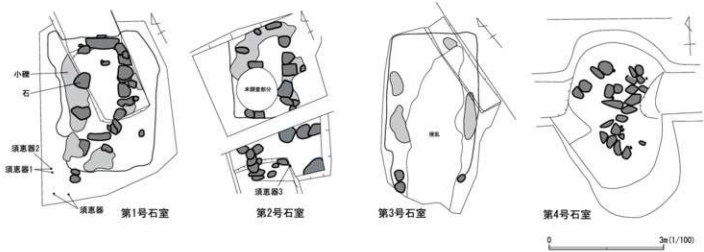
第 3 号石室は，石室中央に大きく攪乱が入っていたが，石室掘形と考えられるプランが捉えられたため石室と推定した。玄室規模は不明であり，出土遺物も無かった。

第 4 号石室は，石室形状が確認面では明瞭に捉えられていないが，人頭大の礫が多量に並んで出土したことから石室と推定した。玄室規模は不明であり，出土遺物も無い。

第 1 号墳は，南側に開口する横穴式石室を有する古墳である。旧校舎の基礎によって一部破壊されているが，周溝外径約 20 mを測る円墳と思われた。周溝内側から



第 37 図　磯崎東古墳群第 8 次調査区



第 38 図　磯崎東古墳群第 8 次調査区第 1 ～ 4 号石室

第 39 図　磯崎東古墳群第 8 次調査区出土遺物

横穴式石室奥壁側の掘形ラインまでの長さは約７ｍである。前庭部の石組が若干認められたが，石組のほとんどは確認面以下に拡がるものであろう。黒色表土中に石室プランが認められることから，やはり石室は表土を掘り込んだ土坑内に設けられていたと考えられる。なお，石室が開口する付近の周溝が，若干南方に突出する形状を呈していることに注意したい。第１号墳からの出土遺物は無かった。

出土遺物　出土遺物は少なく，第１号石室と第２号石室から出土したフラスコ型長頸瓶の頸部片および瓶類の頸部片が認められた程度であった。

遺物説明

1　出土位置：第１号石室　注記：石棺 1P1・2　材質：須恵器　器種：フラスコ形長頸瓶　残存：頸部 20％（口縁部欠失）　法量：－　色調：明灰色　胎土：－　技法等：頸部外面に沈線を２条施す。肩部外面に厚い緑色釉。頸内外面に薄い釉。焼成硬質。

2　出土位置：第１号石室　注記：石棺 1P1　材質：須恵器　器種：瓶（フラスコ形瓶）　残存：口縁部片　法量：－　色調：灰色　胎土：－　技法等：内面緑色釉。外面口辺部薄く釉付着。焼成硬質。

3　出土位置：第２号石室　注記：石棺 2P1　材質：須恵器　器種：瓶　残存：頸部片　法量：－　色調：灰色　胎土：－　技法等：内面に薄く降灰。焼成硬質。

9　畠ノ原遺跡

（1）過去の調査

畠ノ原遺跡においては，平成３年７月に第１次調査が実施されているが，遺構は見つかっていない。調査区からは縄文土器（前期初頭）・弥生土器（十王台式）のほか，微細な土師器・須恵器・中世陶器の破片が出土している。

（2）第２次調査報告

調査経緯　金上字畑ケ原 906-2 に所在する土地について集合住宅建築の計画があり「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。現地は畠ノ原遺跡に当たっており，踏査を行なったところ，土師器片などの遺物の散布を認めた。教育委員会は建築・土木工事を行なう際は事前に試掘調査を必要とする旨の回答を行なった。続いて，文化財保護法 93 条１項に基づく届出が提出されたため，茨城県教育委員会にそれを進達するとともに，試掘調査についてひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に依頼した。試掘調査は 11 月 24 日～ 12 月８日にかけて行われた。

住居跡が確認されたが，工事立会いによる対応となった。

第 40 図　畠ノ原遺跡の調査地点

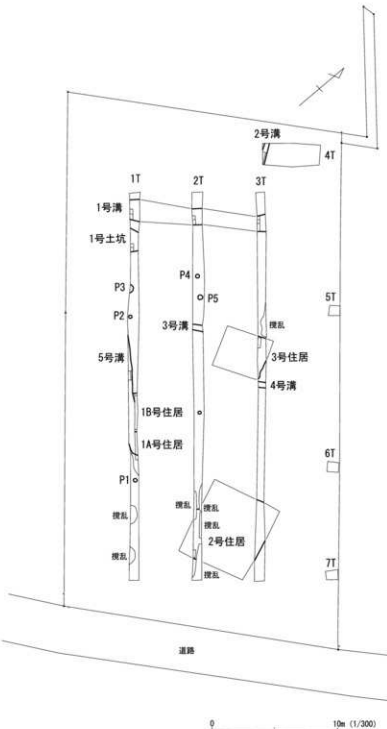
調査結果　調査地は，金上溜がある谷が北に延び，浅い谷となって西方に向きを変える地点の南側斜面に位置する。地形は北東方向に緩く下がっていく緩傾斜地である。調査時は畑地であった。調査対象地内に１～４トレンチとした４本のトレンチと，５～７トレンチとした３か所の試掘坑を設定し，手掘りによる表土除去を実施した。確認面までの深さは，4 トレンチ以外は 0.2 ～ 0.3 ｍと浅い。4 トレンチは埋没谷にかかっていたため表土は深く，1 ｍを測った。調査の結果，住居跡４基，溝跡５条を確認した。遺構の時期を決定できる遺物がなかったため遺構の時期は不明である。ただし，ピット４確認面覆土中より須恵器有台杯底部が出土していることから，このピットが８世紀後半から９世紀前半頃の遺構である可能性を指摘できるかもしれない。

出土遺物　表土中より，縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，石器が出土した。とくに縄文時代草創期の爪形文土器の破片が出土しているのが注目される。

遺物説明

第 42 図

1　出土位置：4 トレンチ表土　注記：4 トレンチ表土　時代時期：縄文時代草創期（爪形文土器）　器種：深鉢形もしくは鉢形土器　文様：「ハ」字状爪形文が縦位に施文されている　備考：底部付近の破片であり，底部は器壁が肥厚する。内面には発泡状の剥落が見られる。群馬県西鹿田中島遺跡，下宿遺跡 E 地点の爪形文土器との類似から，草創期に位置付けられるものと考える。



第41図　畠ノ原遺跡第2次調査区

2　出土位置：4トレ表土　注記：4トレ表土　時代時期：弥生時代
文様：付加条縄文（ＬＲ＋２Ｒ）

3　出土位置：4トレ表土　注記：4T表土　器種：磨石か　石材：安山岩　法量：長さ94㎜，幅72㎜，厚さ37㎜　重量：299.3ｇ　備考：使用痕は明瞭でない

第43図

1　出土位置：表土　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部35％　法量：底径（7.6）　色調：灰色　胎土：砂（白，灰少），骨針　技法等：二次底部面あり。底部外面1方向手持ちヘラ削り。焼成硬質。　備考：木葉下産か

2　出土位置：1トレンチ1号溝覆土　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部40％　法量：底径（7.0）　色調：灰色　胎土：砂（白，白透），骨針少　技法等：回転ヘラ切り。焼成硬質。
備考：木葉下産か

3　出土位置：4トレ　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部周縁20％，体部下半15％　法量：底径（6.8）　色調：灰色　胎土：礫（白），砂（白）　技法等：回転ヘラ切り。焼成硬質。

4　出土位置：1トレ　材質：須恵器　器種：有台杯　残存：底部20％　法量：高台径（9.1）　色調：灰色　胎土：礫（灰多，白少），骨針微量　技法等：底部外面回転ヘラ削り。焼成硬質。高台接地面外側が磨滅する。　備考：木葉下産か

5　出土位置：ピット4覆土　材質：須恵器　器種：有台杯か　残存：底部90％（高台20％欠失）　法量：高台径8.3
色調：灰色　胎土：礫（白少，灰少，白透少），砂（白，灰少），骨針微量　技法等：回転ヘラ切り痕を底部中央に残す。焼成硬質。使用痕はほとんどみられない。　備考：木葉下産か

6　出土位置：1トレ　材質：須恵器　器種：有台盤か
残存：底部60％　法量：―　色調：灰褐色　胎土：礫（白多，白透少，灰少），骨針微量　技法等：高台接合面に沈線は施さない。底部外面ヘラ記号。内面やや磨滅する。焼成硬質。
備考：木葉下産か

7　出土位置：4トレ　材質：須恵器　器種：高杯　残存：脚部端10％　法量：脚部径（14.5）　色調：灰色　胎土：砂（白透），骨針微量　技法等：内面に降灰する。外面脚部端黒化。透かしあり。焼成硬質。　備考：木葉下産か

8　出土位置：4トレ　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部20％　法量：口径（18.5）　色調：茶色，暗褐色　胎土：砂（白透多，白），白雲母多　技法等：口縁部ヨコナデ。外面頸部にヘラのあたり。脚部内面横方向ナデ。　備考：新治窯付近産の常陸型甕か

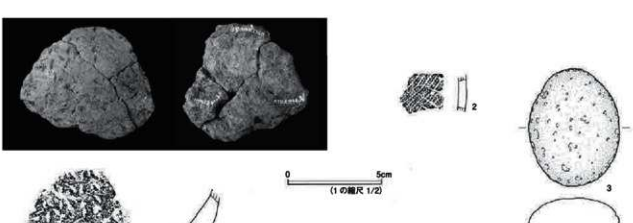
9　出土位置：4トレ　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部20％　法量：口径（13.6）　色調：外面…褐色，ところどころ煤ける。内面…褐色，暗褐色　胎土：砂（白透多，白），黒雲母少　技法等：口縁部ヨコナデ。胴部内面横方向ヘラナデ。

10　出土位置：4トレ　材質：土師器　器種：甕　残存：底部30％，脚部下端30％　法量：底径（7.0）　色調：外面…褐色～黒褐色，内面…褐色　胎土：砂（白透多），白雲母多　技法等：底部木葉痕。外面横方向ヘラ削りの後，縦方向ヘラミガキ。外面一部煤ける。　備考：新治窯付近産の常陸型甕と思われる。

11　出土位置：表土　材質：石（結晶片岩）　器種：砥石　残存：一部欠失　法量：7.3×5.4×5.8，重さ460ｇ　色調：灰褐色　使用痕：使用面3面。使用面の1面に顕著な刻線あり。

12　出土位置：4トレ　材質：石　器種：敲石　残存：完形　法量：17.3×7.0×6.5，重さ1040ｇ　色調：明褐色　使用痕：敲打痕1ヵ所

13　出土位置：4トレ　材質：石　器種：敲石　残存：完形　法量：11.2×7.5×5.3，重さ502ｇ　色調：明褐色　使用痕：敲打痕2ヵ所



第 42 図　畠ノ原遺跡第 2 次調査区出土遺物（1）

第 43 図　畠ノ原遺跡第 2 次調査区出土遺物（2）

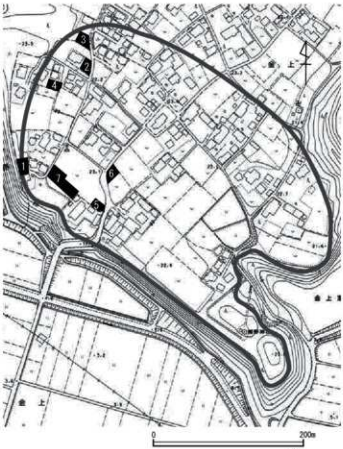
10　金上塙遺跡

（1）過去の調査

金上塙遺跡は，過去に 6 次の調査が実施され，奈良・平安時代の住居跡が 4 基検出されている。住居跡は，第 1・5・6 次調査区で検出されていることからみて，那珂川を臨む台地縁辺部に集落域が広がるのがわかる。今回の調査区もそうした集落域に含まれており，調査の結果，やはり奈良・平安時代の住居跡が確認された。なお過去の調査においては，第 6 次調査区で 7 世紀末の大型井戸と推定される遺構が確認されていることが注目される。

（2）第 7 次調査報告

調査経緯　金上字塙 807 に所在する土地について集合住宅建築の計画があり「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。現地は金上塙遺跡に当たっており，踏査を行なったところ，土師器片などの遺物の散布を認めた。教育委員会は建築・土木工事を行なう際は事前に試掘調査を必要とする旨の回答を行なった。続いて，文化財保護法 93 条 1 項に基づく届出が提出されたため，茨城県教育委員会にそれ



第 44 図　金上墳遺跡の調査地点

第 7 表　金上墳遺跡調査一覧

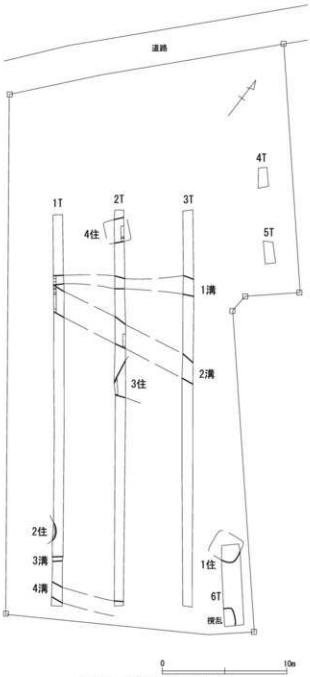
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1984	勝田市教委	試掘調査	住居跡 1（奈良）	1
2	1985	勝田市教委	試掘調査	なし	2
3	1988	勝田市教委	試掘調査	なし	3
4	1999	市教委	試掘調査	土坑 2	4
5	2003	市教委	試掘調査	住居跡 2（奈良），溝 1（中世）	5
6	2007	市教委	試掘調査	住居跡 1（平安），井戸（7c 末）	6

文献
1　昭和 59 年度市内遺跡発掘調査報告書
2　昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
3　昭和 63 年度市内遺跡発掘調査報告書
4　平成 11 年度市内遺跡発掘調査報告書
5　平成 15 年度市内遺跡発掘調査報告書
6　平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書

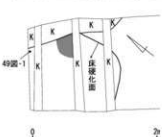
を進達するとともに，試掘調査についてひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に依頼した。試掘調査は 11 月 30 日～ 12 月 6 日にかけて行われた。

住居跡が確認されたが，工事立会いによる対応となった。

調査結果　調査地は，那珂川低地を臨む台地縁辺部に位置する平坦地である。調査時は畑地であった。調査



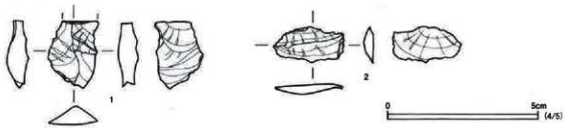
第 45 図　金上墳遺跡第 7 次調査区



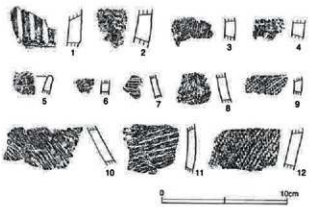
第 46 図　金上墳遺跡第 7 次調査区第 1 号住居跡（K は撹乱）

地と台地斜面との間には林があり，その中に円墳と思われる古墳が 1 基認められる。

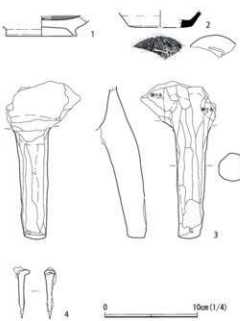
調査は 1 ～ 6 トレンチとした 6 本のトレンチを設定



第 47 図　金上塙遺跡第 7 次調査区出土遺物（1）



第 48 図　金上塙遺跡第 7 次調査区出土遺物（2）



第 49 図　金上塙遺跡第 7 次調査区出土遺物（3）

し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.4 ～ 0.5 m を測る。調査の結果，住居跡 4 基，溝跡 4 条を確認した。住居跡の時期は，9 世紀が 1 基（第 4 号住居跡），11 世紀が 1 基（第 1 号住居跡），時期不明が 2 基である。溝跡は時期を決定できる遺物がなかったため時期不明である。

第 1 号住居跡は床面のみの遺存であり，床硬化面からかろうじて住居の範囲を窺うことができた。床面直上から土師器椀 1 が出土したこと，床面付近の覆土中から土師器三足鍋 3 が出土したこと，床面に炉が認められたことなどからみて，11 世紀頃の住居跡と推定した。第 4 号住居跡は覆土中より須恵器杯 2 が出土したため 9 世紀の住居跡と推定した。なおトレンチ表土中からは縄文土器，弥生土器，石器，鉄釘が出土している。

出土遺物　石器は剥片を 2 点図化したが，縦長剥片 1 が旧石器時代の可能性がある。縄文土器は田戸下層式及び繊維土器が，弥生土器は足洗式が出土している。三足鍋は鍋部外面が煤けることからみて火にかけられたことがわかる。第 1 号住居跡の炉で用いられた可能性は高いだろう。

遺物説明

第 47 図

1　出土位置：2 トレ表土　注記：2 トレ表土　器種：縦長剥片　石材：メノウ　法量：長さ 23 ㎜，幅 16 ㎜，厚さ 6 ㎜　重量：1.8 g　備考：上部を欠損する。表面にローム土の付着が見られることから，旧石器時代のものの可能性がある

2　出土位置：2 トレ表土　注記：2 トレ表土　器種：横長剥片　石材：石英　法量：長さ 12 ㎜，幅 23 ㎜，厚さ 3 ㎜　重量：0.7 g

第 48 図

1　出土位置：2 トレ表土　注記：2 トレ表土　時代時期：縄文時代早期（田戸下層式）　器種：深鉢形土器　文様：太沈線文

2　出土位置：3 トレ表土　注記：3 トレ表土　時代時期：縄文時代早期か　器種：深鉢形土器　文様：無文

3　出土位置：3 トレ表土　注記：3 トレ表土　時代時期：縄文時代早～前期（繊維土器）　器種：深鉢形土器　文様：無文　備考：胎土に繊維を含む

4　出土位置：3 トレ表土　注記：3 トレ表土　時代時期：縄文時代早～前期（繊維土器）　器種：深鉢形土器　文様：不明　備考：胎土に繊維を含む

5　出土位置：3 トレ表土　注記：3 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　文様：口唇部縄文，口縁部平行沈線（半截竹管）

6　出土位置：3 トレ表土　注記：3 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　文様：平行沈線（半截竹管）

7　出土位置：3 トレ表土　注記：3 トレ表土　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　文様：平行沈線（半截竹管）

8　出土位置：4 住覆土　注記：4 住フク土　時代時期：弥生時代中期

文様：付加条縄文（ＬＲ＋Ｒ）

9　出土位置：3トレ表土　注記：3トレ表土　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（ＬＲ＋Ｒ，ＬＲは1段3条）

10　出土位置：2トレ表土　注記：2トレ表土　時代時期：弥生時代中期　器種：大型壺形土器　文様：反撚り縄文（ＲＲ）　備考：内面が剥落

11　出土位置：2トレ表土　注記：2トレ表土　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（ＬＲ＋Ｒ）

12　出土位置：1住覆土　注記：1住フク土　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文（ＬＲ＋Ｒ）

第49図

1　出土位置：1住床面　材質：土師器　器種：椀　残存：底部70％　法量：高台径7.4　色調：外面…褐色，内面…黒色　胎土：細砂（明褐，透），骨針微量　技法等：底部内面放射状ヘラミガキ・黒色処理

2　出土位置：4住覆土　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部外周25％　法量：底径（6.7）　色調：灰色　胎土：礫（透，灰），骨針微量　技法等：回転ヘラ切り。底部外面ヘラ記号。焼成硬質。　備考：木葉下産か

3　出土位置：1住覆土　材質：土師器　器種：三足鍋　残存：脚部　法量：―　色調：外面…暗褐色，黒褐色，内面…橙褐色，断面褐色　胎土：礫（灰少，白少，透少），砂（透多，白褐）　技法等：外面縦方向ヘラ削り。内面横方向ナデ。鍋部の外面が煤けており，火にかけられたものと思われる。脚部接地面に磨滅は認められない。

4　出土位置：2トレ　材質：鉄　器種：釘　残存：先端部欠失　法量：残存長4.4，重さ7.64ｇ

Ⅲ　本調査報告

1　三反田蜆塚遺跡第３次調査報告

（1）発掘調査の経緯

三反田字天王前 5115-1 に所在する土地について，埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が提出された。現地は平成 22 年３月の試掘調査で遺構が確認されていたため教育委員会は建築・土木工事を行なう際は事前に発掘調査を必要とし，文化財保護法 93 条１項に基づく届出が必要である旨の回答を行なったところ，６月 10 日に提出するようされたため，茨城県教育委員会にそれを進達するとともに，発掘調査の準備を進めた。発掘調査は７月 22 日から８月 23 日にかけて行われた。

（2）調査の経過

調査期間 / 平成 23 年７月 22 日～８月 23 日

調査担当 / 佐々木義則

調査面積 /154 ㎡

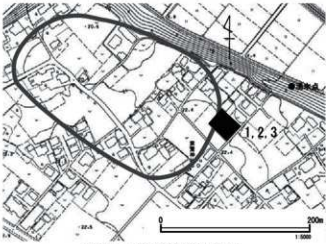
時代 / 古墳時代後期，江戸時代

遺構 / 住居跡１基，土坑４基，溝跡２条

調査地は，台地縁辺部から 60 mほど離れた地点に位置し，地形は北東方向に緩く下がっていく緩傾斜地である。調査時は畑地であった。調査区東脇には中丸川低地に下りていく小道が通り，低地に下りたところに現在も豊富な湧水が小さな滝のようになって湧きだす湧水点が所在する（第 50 図参照）。古墳時代の集落立地を考える際，この湧水点の存在は大きい。

さて今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり，建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は過去の試掘調査により遺構分布は把握されていたため，今回の調査区に係る遺構はおおよそ予想がついた。しかし第３号溝などは過去の試掘トレンチの間から検出されているなど，やはり本調査によって明らかになる遺構もあった。なお今回検出された遺構番号は，過去の試掘時に付された番号に従っている。それでは以下，簡単に調査の経過を記す。

７月 22 日：重機による表土除去開始。　７月 23 日：表土除去終了。　７月 26 日：遺構掘り込み開始。午後小学６年生４名発掘体験。　８月 10 日：第８号住居跡遺物出土状況写真・図作成。　８月 12 日：第８号住居跡完掘平面図作成。　８月 17 日：溝・土坑の写真・図の作成を進める。　８月 18 日：調査区全体写真撮影。午後機材撤収し作業終了。



第 50 図　三反田蜆塚遺跡の調査地点

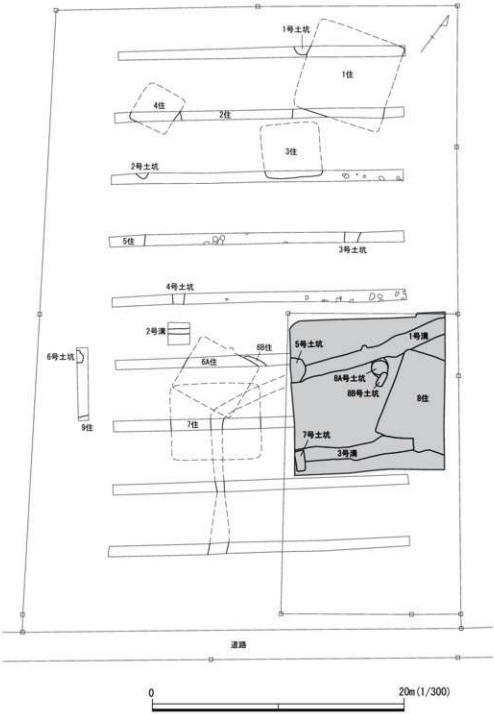
写真４　遺構確認状況

写真５　ふるさと考古学受講生の発掘体験

（3）住居跡

第８号住居跡

遺構　１・３号溝跡と重複しており，新旧関係は第８号住居跡→第３号溝跡である。第１号溝跡との新旧は不明。住居跡東壁は調査区外に位置しており未調査と

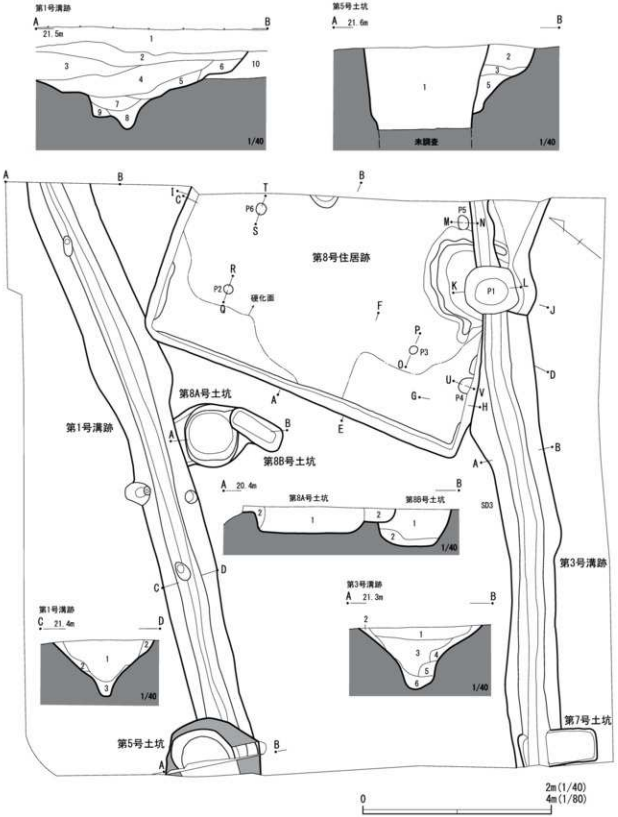


第 51 図　三反田蛾塚遺跡第 3 次調査区（網かけ部）

なっており，東壁際に炉もしくは竈が設置されていたものと推定される。ただし覆土断面に竈材の崩壊・流出層が認められなかったことからすると，竈であったとしても規模は小さいものであったろう。当住居跡の主軸方向はN-72°-Eを測る。竪穴部の規模は南北7.4 mを測る。東西の規模は不明である。壁高は北壁 63 ｃｍ，西壁 75 ｃｍ，南壁 72 ｃｍを測る。壁周溝は明瞭ではないが，西壁直下などところどころやや窪む部分が認められた。

ピットは，Ｐ２･３が主柱穴，Ｐ５･６が補助柱穴になるものと思われる。主柱穴の深さはＰ２が 75 ｃｍ，Ｐ３が 65 ｃｍを測るのに対し，補助柱穴の深さはＰ５が 20 ｃｍ，Ｐ６が25 ｃｍと浅い。1.1 × 1.0 ｍの平面規模を持つＰ１は，住居跡南壁ラインから張り出して掘り込まれており，ピットを取り囲むように床面には隆起帯がめぐっている。Ｐ４は壁際に認められたピット状の掘り込みであるが，その底面はすぼまっており，壁柱穴の可能性は低いのではないかと思われる。床面は主柱穴で囲まれる範囲を中心に硬化し一部壁際まで硬化しているが，住居隅は軟質部がひろがるようである。竪穴部の覆土は，竪穴部の外周部にロームブロックを含む土が堆積する。住居廃絶後に周りからある程度埋め戻したことも考えられるが，あるいは竪穴部周囲の周堤帯を形成し，さらに屋根下部にも載せられていた住居掘削土が，住居廃絶後に竪穴部周囲に落ち込んだ状況を示しているのかもしれない。覆土第１～３層は暗褐色土を基調としていることからみて自然埋土と考えてよいだろう。住居掘形は特に認められなかった。

遺物出土状況　遺物は上層から下層にかけて出土しているが，とくに人為的埋土と考えられる下層部からの出土が多い。遺物のまとまりは，竪穴部北西隅の覆土上層部に認められる以外は，散在した出土状況を示している。なお遺物 32・33・35・36 といった手づくね土器が床面および覆土下層から近接して出土することは注意



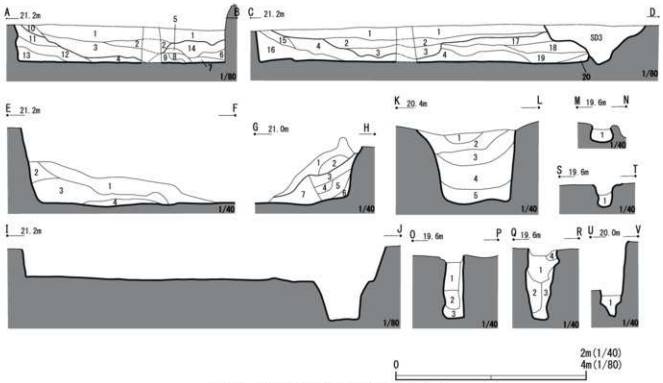
第 52 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区出土遺構

したい。

遺物説明

第 55 図

1　注記:P23・33　材質:土師器　器種:杯　残存:ほぼ 100%　法量:口径 14.4，稜径 11.8，器高 5.3　色調:橙～赤～褐～暗褐～黒色　胎土:砂（白少，透多），鉄分の粒が若干みられる　焼成:良好　技法等:外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部ヨコナデ後渦巻状にヘラミガキ。　使用痕:外面体部が磨滅している。備考:内面器面の一部が剥離している。



第 53 図　三反田蛾塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡断面図

土層説明

8 住 AB・CD 土層断面

1　暗褐色　（ローム粒含む）
2　暗褐色　（ローム粒やや多量含む）
3　暗褐色　（ローム粒やや多量含む　明褐色土（ローム粒多量含む）ブロック含む）
4　褐色　（ローム粒多量含む　ローム小ブロック含む）
5　明褐色　（ローム粒多量含む　ローム小ブロック含む）
6　明褐色　（黒褐色土混じる　ローム粒多量含む）
7　明褐色　（ローム粒多量含む　ロームブロック少量含む）
8　明褐色　（黒褐色土混じる　ロームブロック含む）
9　明褐色　（ローム粒多量含む　黒褐色土小ブロック含む　ローム小ブロック含む）
10　暗褐色　（ローム粒やや多量含む）
11　褐色　（ローム粒多量含む　ロームブロック少量含む）
12　明褐色　（ローム非常に多量含む　ロームブロック含む　黒色土粒含む）
13　黒褐色　（ローム粒非常に多量含む　ロームブロック含む　黒色土混じる）
14　明褐色　（ローム粒多量含む　ロームブロック含む）
15　褐色　（ローム粒やや多量含む　ローム小ブロック含む）
16　明褐色　（ローム粒多量含む　ロームブロック含む）
17　褐色　（黒褐色土混じる　ロームブロック含む）
18　明褐色　（ローム粒非常に多量含む　ロームブロック含む）
19　明褐色　（ローム粒多量含む　ロームブロック少量含む）
20　暗褐色　（明褐色土混じる　黒褐色土混じる）

8 住 EF 土層断面

1　明褐色　（硬化した土のブロック（ローム土と黒色土の混合層）を多量含む）
2　暗褐色　（ローム粒含む　ロームブロック少量含む）
3　明褐色　（ローム粒非常に多量含む　ローム小ブロック含む）
4　黄褐色　（ローム土多量混じる）

8 住 GH 土層断面

1　明褐色　（ローム小ブロック多量含む）
2　黄褐色　（ローム土主体）
3　黒褐色　（ローム粒含む）
4　明褐色　（ローム粒含む）
5　暗褐色　（ローム粒非常に多量含む）
6　明褐色　（ローム粒非常に多量含む）
7　明褐色　（ローム粒多量含む　ローム小ブロック含む）

8 住 KL 土層断面

1　暗褐色　（黒褐色土混じる　ローム粒やや多量含む）
2　明褐色　（ロームブロック含む　ローム粒やや多量含む）
3　黒褐色　（ロームブロック多量含む）
4　黄褐色　（ローム土主体）
5　黄褐色　（暗褐色土混じる）

8 住 MN 土層断面

1 明褐色

8 住 OP 土層断面

1　褐色　（暗褐色土混じる）
2　黄褐色　（褐色土混じる）
3　黄褐色　（ローム土主体）

8 住 QR 土層断面

1　明褐色　（暗褐色土少量混じる）
2　黄褐色　（暗褐色土少量混じる）
3　黄褐色　（ローム主体）
4　黄褐色　（ロームブロック主体　貼床）

8 住 ST 土層断面

1　明褐色

8 住 UV 土層断面

1　明褐色

1 溝 AB 土層断面

1　褐色　（耕作土）
2　褐色　（ローム粒含む）
3　暗褐色　（黒ボク土少量含む）
4　褐色　（ローム土少量含む）
5　黒褐色　（ローム土少量含む）
6　褐色　（ローム粒含む）
7　黒褐色
8　暗褐色　（ローム粒やや多量含む）
9　褐色　（ローム粒多量含む）
10　褐色

1 溝 CD 土層断面

1　暗褐色　（ローム粒やや多量含む）
2　褐色　（ローム土混じる）
3　明褐色　（ローム粒多量含む。ロームブロック含む）

3 溝 AB 土層断面

1　褐色　（ローム粒含む）
2　明褐色　（ローム土薄く混じる）
3　暗褐色　（ローム粒やや多量含む　縁まりあり（通路として使われていたか？）
4　明褐色　（ローム土混じる）
5　明褐色　（ローム土多量含む）
6　明褐色　（ロームブロック多量含む　ローム粒多量含む）

5 土坑 AB 土層断面

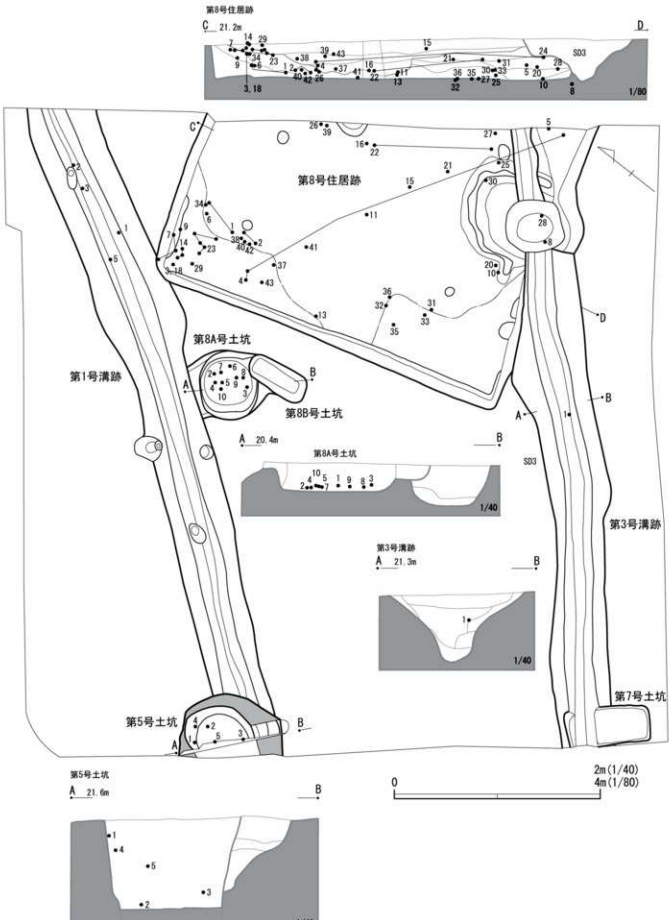
1　暗褐色　（ローム粒少量含む）
2　黄褐色　（ローム土と暗褐色土の混合層）
3　褐色
4　明褐色　（ローム土多量混じる）
5　褐色　（ローム粒含む（1 号溝層土））

8A 土坑 AB 土層断面

1　暗褐色　（ローム小ブロック多量含む）
2　明褐色　（ロームブロック多量含む）

8B 土坑土層断面

1　褐色　（ローム小ブロック含む　ローム粒やや多量含む）
2　明褐色　（ローム粒多量含む）



第 54 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区遺物出土状況

2　注記：P103・105，4区№2・4　材質：土師器　器種：杯　残存：20%　法量：口径（16.0），稜径（13.0），器高（4.4）　色調：橙色　胎土：礫（白美），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部不明。　使用痕：―　備考：内外面と器面の一部が剥離している。

3　注記：P2　材質：土師器　器種：杯　残存：60%　法量：口径15.0，稜径13.0，器高4.8　色調：橙～黒褐色　胎土：礫（白微），砂（白少，透多，灰微）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヘラナデ，体部ヘラ削り。内面ヨコナデ後ヘラミガキ。　使用痕：―

4　注記：P35・38，4区№2・3　材質：土師器　器種：杯　残存：70%　法量：口径14.4，稜径13.4，器高5.5　色調：外面橙～黒色，内面橙色　胎土：砂（白少，透多），きれいな胎土　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部ヘラ削り後ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部ヘラナデ後放射状ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：内外面とも器面の一部が剥離している。

5　注記：P82，Ⅱ区№9　材質：土師器　器種：杯　残存：10%　法量：口径（14.0），稜径（11.6），器高（5.3）　胎土：砂（白少，透多，黒少）　色調：外面橙色，内面橙～赤色　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り？内面不明，赤彩ありか？　使用痕：―　備考：内外面とも器面が非常に磨滅している。

6　注記：P21　材質：土師器　器種：杯　残存：20%　法量：口径（13.0），器高（5.5）　色調：にぶい黄橙～褐～暗褐色　胎土：礫（白少），砂（白少，透多，黒微），鉄分の粒が少量みられる。　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ？　使用痕：―　備考：内面体部器面が剥離している。

7　注記：P1・7・10，4区№3・8，ＳＤ1№1　材質：土師器　器種：杯　残存：10%　法量：口径（14.0），器高（5.0）　色調：橙色　胎土：礫（白微），砂（白少，透多，黒微）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面ヨコナデ後細く粗いヘラミガキ。　使用痕：―

8　注記：P87　材質：土師器　器種：杯　残存：90%　法量：口径14.1，器高4.3　色調：外面橙～赤橙～黒色，内面赤褐色　胎土：礫（赤微），砂（白多，透多，黒多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面ヘラナデ後ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：口縁端部が細かく欠損し，内外面とも器面が磨滅している。

9　注記：P11，4区№3　材質：土師器　器種：杯　残存：40%　法量：口径（14.0），器高（5.0）　色調：赤色　胎土：砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面放射状に密なヘラミガキ。内外面と赤彩されている。　使用痕：―

10　注記：P94　材質：土師器　器種：杯　残存：90%　法量：口径14.0，器高6.1　色調：外面橙～褐～黒褐色，内面橙～橙褐色　胎土：砂（白少，透多），鉄分の粒が少量みられる　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁～体部中位ヨコナデ，下位ヘラナデ？，放射状にヘラミガキ。　使用痕：外面体部下位が磨滅している。　備考：内面器面が磨滅している。

11　注記：P53　材質：土師器　器種：杯　残存：ほぼ100%　法量：口径12.6，器高5.9　色調：外面橙～淡黄色，内面橙～にぶい橙色　胎土：礫（茶微），砂（白多，透多），鉄分の粒が少量みられる。　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面不明　使用痕：―　備考：内外面とも器面が非常に磨滅している。

12　注記：4区№2　材質：土師器　器種：杯　残存：10%　法量：口径（13.0），器高（3.4）　色調：外面赤～黒色，内面赤色　胎土：砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：内外面とも口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。内外面とも赤彩されている。　使用痕：―

13　注記：P99　材質：土師器　種類：杯　残存：50%　法量：口径13.0，器高5.9　色調：橙～暗赤褐色　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ？　使用痕：内面口縁部が磨滅している。　備考：内面体部の一部が磨滅している。

14　注記：P3・4・5　材質：土師器　器種：杯　残存：30%　法量：口径（13.4），器高（5.7）　色調：外面橙褐～淡橙褐色，内面橙褐色　胎土：礫（白微，灰微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部ヘラナデ後ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：内面体部の器面が剥離している。

15　注記：P60　材質：土師器　器種：高杯　残存：杯部下位～脚部上位80%　法量：器高（5.7）　色調：にぶい黄橙色　胎土：礫（白微），砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面杯部ヘラナデ，脚部ヘラミガキ。内面杯部不明，脚部ヘラナデ。　使用痕：―　備考：内面杯部器面が磨滅している。

16　注記：P76　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚柱部100%　法量：器高（10.0）　色調：淡黄色　胎土：礫（灰微），砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ，内面ヘラナデ・ユビナデ　使用痕：―

17　注記：№1　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部上部100%　法量：器高（7.1）　色調：外面橙色，内面にぶい橙色　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ？，内面ヘラナデ。杯部と脚部の接合はソケット状。　使用痕：―　備考：外面器面が磨滅している。

18　注記：P2　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部50%　法量：底径（8.1），器高（5.0）　色調：橙色，脚内面黄橙～黒色　胎土：礫（白微），砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面杯部ヘラ削り，脚部ヨコナデ。内面杯部ヘラナデ？，脚部ヘラナデ。　使用痕：―　備考：内面杯部器面が磨滅している

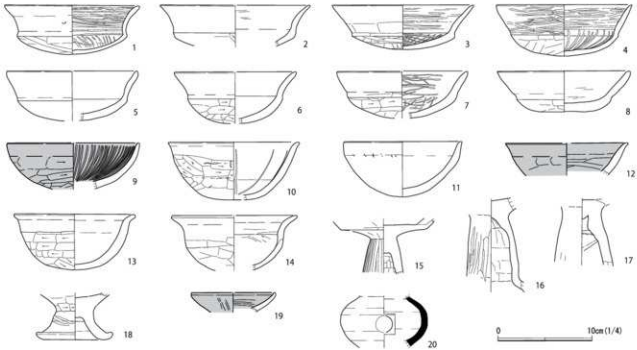
19　注記：№3　材質：土師器　器種：器台　残存：杯部20%　法量：口径（9.0），器高（2.1）　色調：赤橙色　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラナデ・ヘラミガキ。内外面とも赤彩されている。　使用痕：―

20　注記：P92　材質：須恵器　器種：ハソウ　残存：胴～底部20%　法量：胴径（9.2），器高（5.5）　色調：外面青灰～黄白色，内面青灰色胎土：砂（白微，透微）　焼成：硬質　技法等：回転ヘラ削り　使用痕：―

第56図

21　注記：P63　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部30%，胴部上半10%　法量：口径（18.8）　色調：外面橙褐色，黒褐色。内面褐色，黒褐色　胎土：小石（灰チャート），礫（白透少），砂（透多，白）　技法等：胴部外面斜方向ヘラ削りの後，ヘラミガキ。頸部外面縦方向ヘラ削りおよび口縁部外面縦方向ヘラナデの後，口縁部ヨコナデ。内面は胴部から頸部下半にかけて横方向ヘラナデの後，口縁部ヨコナデ。

22　注記：P64・77　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部30%，肩部10%　法量：口径（17.2）　色調：褐色，灰褐色　胎土：礫（白透多，白，灰少）　技法等：外面…肩部横方向ヘラナデ。頸部縦方向ナデの後，屈曲部強いヨコナデ。口縁部ヨコナデ。内面…肩部横方向ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。



第 55 図　三反田銀塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡出土遺物（1）

23　注記：P16・17・18・20・30　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部 30%, 肩部 20%　法量：口径（16.4）　色調：橙色　胎土：礫（白褐, 灰少）, 砂（白多, 白透）　技法等：外面…肩部ヘラ削り。口縁部ヨコナデ。内面…肩部横方向ヘラナデの後, ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。

24　注記：P38・84　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部 30%　法量：口径（19.5）　色調：内外面橙色, 断面褐色　胎土：礫（灰チャート）, 砂（透, 灰, 角閃石・輝石類, 白少）　技法等：外面…頸部縦方向ヘラナデの後, 粗い縦方向ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。内面…頸部横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデの後, 粗い横方向ヘラミガキ。

25　注記：P81, Ⅱ区№ 3, SD3 № 5　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部 20%　法量：口径（23.5）　色調：内外面明褐色, 断面黒灰色　胎土：礫（灰, 白透少, 黄透少）　技法等：外面…口縁部ヨコナデ。肩部外面ヘラ削り。内面…口縁部ヨコナデ。肩部外面横方向ヘラナデ。

26　注記：P69　材質：土師器　器種：甕　残存：底部　法量：底径 7.6　色調：外面…橙色, 黒褐色。底部中央黒色。内面…橙色　胎土：礫（白透）, 砂（白透多, 白少）, 黒雲母細片多　技法等：外面…底部粘土紐接合痕。底部 1 方向ヘラ削り。胴部外面横方向ヘラ削り。内面…ヘラナデにより平滑になる。

27　注記：P80, Ⅱ区№ 4・7　材質：土師器　器種：甕　残存：底部　法量：底径 9.1　色調：外面…黒色, 暗褐色。内面…橙褐色。　胎土：礫（灰少, 白褐少, 暗赤）, 砂（白褐）　技法等：外面…底部外周・胴部ヘラ削り。内面…全体的に表面が剥離しており, 調整不明。

28　注記：P86　材質：土師器　器種：甕　残存：底部　法量：底径 7.3　色調：橙色, 暗褐色　胎土：礫（灰少）, 砂（透, 灰少）　技法等：外面…胴部下端縦方向ナデ。底部中央窪む。内面…ナデ。

29　注記：P13　材質：土師器　器種：甕　残存：上半部 30%　法量：口径（14.1）　色調：外面…褐色。内面…暗褐色。　胎土：礫（白少）, 砂（白, 白透, 透）　技法等：外面…胴部外面ヘラ削り。口縁部ヨコナデ。肩部器表面荒れる。内面…胴部横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。内面暗色化しており, 汚染によるものか。

30　注記：P88, Ⅱ区 No.2-3　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部 25%, 肩部 30%, 胴部中位 10%　法量：口径（13.7）　色調：橙褐色。口縁部内面から外面にかけて黒色, 暗褐色　胎土：小石（明灰少, 白褐少）, 砂（透, 赤チャート少, 白褐）　技法等：外面…胴部ナデ。頸部縦方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。内面…胴部横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。

31　注記：P48　材質：土師器　器種：台付甕　残存：脚部 70%　法量：底径 8.8, 器高（6.0）　色調：にぶい黄橙色　胎土：砂（白少, 透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。　使用痕：―

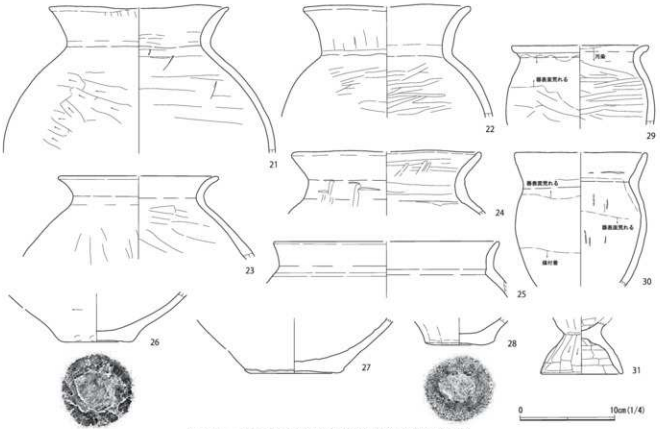
第 57 図

32　注記：P97　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：若干欠失（ほぼ完形）　法量：器高 5.2　色調：赤褐色, 黒色　胎土：砂（白褐）技法等：成形は手づくねによる。口縁は歪む。口縁を除く外面全体に粘土粒が貼り付けられている。粘土粒は 35 ほど認められ, そのうちの 2 つは他より大きく口縁部下につけられており, その先端は 2 つとも欠けている。粘土粒の剥がれた跡が 3 ヵ所認められる。

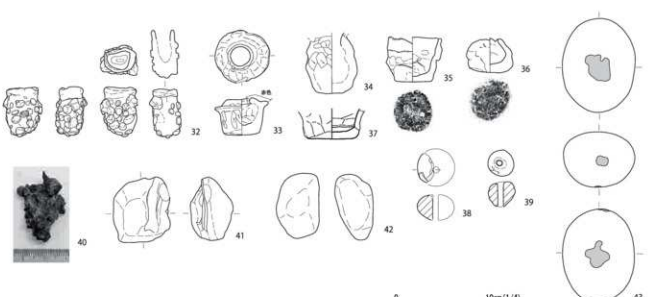
33　注記：P95　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：ほぼ完形　法量：口径 2.6, 器高 3.7, 底径 3.7　色調：上面赤色, 他は橙褐色, 明褐色, 黒灰色　胎土：砂（白褐, 白透少）　技法等：成形は手づくねによる。胴部外面には粗くヘラ削りが施される。ひだ状の部分の上面から口縁部にかけて赤色を呈する。ベンガラ塗布か。

34　注記：P22　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：口縁部欠失　法量：底径 3.9, 現存高 6.4　色調：外面胴部橙褐色・底部黒色　胎土：砂（白褐）　技法等：成形は手づくねによる。胴部外面には粗くヘラ削りが施される。内部は未調整。

35　注記：P96　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：口縁部若干欠失（ほぼ完形）　法量：口径 5.3, 器高 4.7, 底径 3.7　色調：外面…上半部茶褐色。下半部黒色。内面…体部茶褐色。底部黒褐色　胎土：礫（白, 白透, 明褐少, 赤少）, 骨針微量　技法等：成形は手づくねによ



第 56 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡出土遺物（2）



第 57 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡出土遺物（3）

る。体部外面には粘土輪積み痕が顕著に残り，部分的に指頭圧痕も残る。底部外面は特に調整痕は認められない。底部内面は指頭圧痕が残る。体部内面は一部に粘土接合痕が認められるが，ヘラナデが弱く施され，指頭圧痕はみられない。

36　注記：P98　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：完形　法量：口径 1.9，器高 3.6，底径 3.6　色調：褐色，黒色　胎土：礫（白，褐），骨針微量　技法等：礫（白，褐），骨針微量　技法等：手づくね成形。内外面にどころ所粘土紐接合痕がみられる。底部外面未調整。

37　注記：P100　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：底部 100％　法量：底径 5.5，器高 3.2　色調：暗褐色　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラナデ・ユビナデ。内面ヘラナデ。使用痕：—

38　注記：P34　材質：土師器　器種：球状土錘　残存：30％　法量：推定（3.9 × 3.9 × 2.7），現重量 11.3g　色調：外面暗褐色，破面橙褐色　胎土：砂（白褐，白透）　技法等：—

39　注記：P68　材質：土師器　器種：球状土錘　残存：完形　法量：2.7

× 2.7 × 2.6，重量 17.0g　色調：褐色，橙褐色　胎土：―　技法等：―

40　注記：I2　材質：鉄滓　残存：大きな破面は認められない　法量：33.2 × 19.1 × 10.7mm，重さ 2.5g。　特徴：粘土分の多い鉄滓で軽い。鍛冶滓だろう。

41　注記：S6　材質：石（軽石）　器種：不明　残存：若干欠失　法量：6.7 × 5.9 × 4.5，19g　色調：明褐色

42　注記：S7　材質：石（軽石）　器種：不明　残存：完形　法量：6.7 × 4.5 × 4.0，16g　色調：灰褐色

（4）溝跡

第 1 号溝跡

遺構　南北方向に延びる幅 1.2 m，深さ 0.6 mを測る溝跡である。底面付近を一段深く掘り込む断面形をもつ。第 1 号溝跡が埋没した後に第 5 号土坑（井戸跡）が掘られているが，その他の遺構との新旧は明らかではない。古代の遺物が出土しているが混入品の可能性もあるため，溝跡の時期は不明としておく。

遺物説明

1　注記：P9　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部 25％　法量：底径（8.0）　色調：暗灰色　胎土：礫（白），骨針微量　技法等：回転ヘラ切り未調整。焼成硬質。　備考：木葉下産か

2　注記：P1　材質：須恵器　器種：短頸壺蓋　残存：口辺部 50％欠失　法量：口径 13.5，器高 4.9，鈕径 2.6，鈕高 1.3　色調：灰色　胎土：礫（白，灰），骨針微量　技法等：上面全体に自然釉が薄くかかる。焼成硬質。天井部外面回転ヘラ削り。

3　注記：№ 1・5　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部 20％　法量：口径（17.7）　色調：橙褐色，褐色　胎土：橙褐色，褐色　胎土：砂（白透多，白），白雲母多　技法等：口縁部ヨコナデ。頸部内面器表面荒れる。胴部内面は黒く汚染される。

4　注記：P3　材質：土師器　器種：球状土錘　残存：30％欠失　法量：3.6 × 3.4 ×（2.9），重量 28.9g　色調：褐色　胎土：砂（白透，白少），骨針微量　技法等：ナデ

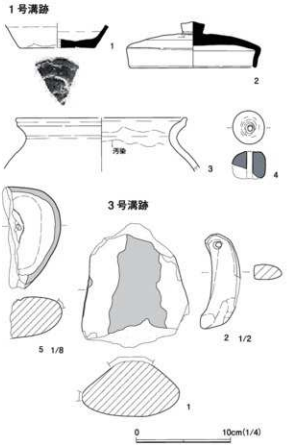
5　注記：S3　材質：石（砂岩）　器種：台石　残存：大きく欠失　法量：21.5 × 11.0 × 8.3，重さ 2754g　色調：灰褐色　使用痕：平坦面中央に窪みあり。平坦面には銹状の付着物が認められる（1 点鎖線の範囲）。荒砥として用いられたか。平坦面の周縁に一定の幅で敲打痕が巡っている。石の隅部を利用して何かを叩き加工した際の痕跡と考えられる。部分的に赤くなっているため，火を受けている可能性がある。　備考：縄文時代の石器の再利用か

第 3 号溝跡

遺構　第 1 号溝と並行するように延びる溝である。幅 1.2 m，深さ 0.65 mを測り，規模も第 1 号溝跡に類似する。第 8 号住居跡が埋没した後に掘削されている。時期を決定できる遺物は出土していない。

遺物説明

1　注記：S2　材質：石（石英斑岩か）　器種：敲石　残存：長軸両



第 58 図　三反田蛾塚遺跡第 3 次調査区溝跡出土遺物

側を欠失　法量：13.1 × 11.0 × 5.8，重さ 1,080g　色調：褐色　使用痕：敲打痕 2 ヵ所。下面火を受けているか？

2　注記：S1　材質：滑石　種類：石製模造品（勾玉）　法量：5.0 × 1.5 × 0.8，重さ 11.0g　色調：暗青灰色　技法：表面に削り痕薄く残る。

（5）土坑

第 5 号土坑

遺構　ローム土を裏込め土とする確認面での直径 1.3 mを測る円形の井戸跡と思われる。かなり深くなることが予想され調査が危険であったため，上部の調査のみにとどめた。遺物は覆土中から出土しているが，そのなかに肥前産青緑釉輪禿皿があるので 17 世紀後半から 18 世紀前半頃の井戸になるものと考えられる。

遺物説明

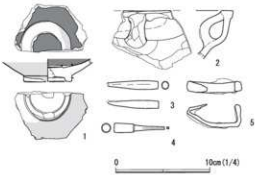
1　注記：P2　材質：陶器　器種：皿　残存：底部 50％　法量：高台径（5.0）　色調：素地白褐色　胎土：―　技法等：内面青緑釉。体部外面透明釉。底部外面露胎。見込み蛇ノ目釉ハギ。　備考：肥前産青緑釉輪禿皿

2　注記：P1　材質：土師質土器　器種：内耳鍋　残存：内耳部　法量：―　色調：内外面明褐色　胎土：砂（白，透，灰少）　技法等：ナデの痕跡からみて，隣接してもうひとつ内耳部がつくようである。

3　注記：C1　材質：銅　器種：煙管（雁首）　残存：火皿欠失　法量：小口内径 0.75，重量 5.5g

4　注記：C3　材質：銅　器種：煙管（吸口）　残存：完形　法量：全長 5.5，小口内径 0.9，重さ 4.8g

5　注記：I1　材質：鉄　器種：鏃？　残存：完形？　法量：重さ 18.8g



第 59 図　三反田蛾塚遺跡第 3 次調査区第 5 号土坑出土遺物

第 7 号土坑

長軸 1.6 m，短軸 0.7 m，深さ 0.4 m を測る長方形の土坑である。しまりのない覆土であったので，近代以降に掘られた土坑ではないかと思われる。出土遺物は無い。

第 8A 号土坑

長軸 1.2m，短軸 1.1m，深さ 0.2m を測る浅い円形土坑の東西に張り出し状の浅い掘り込みを有する土坑である。覆土中にローム ブロックを多量に含むことから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。土坑の底面から，縄文時代の凹石が割れた状態でまとまって出土したほか，寛永通寶（古寛永）や土師質土器の小皿も出土している。江戸時代の土坑であろう。第 5 号土坑とした井戸跡と関わる遺構の可能性がある。

遺物説明

1　注記：№ 2　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部 20％　法量：底径（8.1）　色調：灰色　胎土：礫（白），骨針少　技法等：底部外面ヘラ削りの後，ヘラ記号。焼成硬質。　備考：木葉下産か

2　注記：P2　材質：土師質土器　器種：小皿　残存：完形　法量：口径 6.8，器高 2.0，底径 4.7　色調：明橙褐色　胎土：―　技法等：回転糸切り。内面黒色・茶色に汚染。

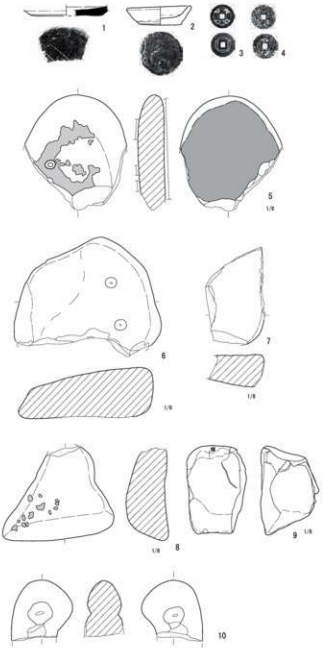
3　注記：銭 1　材質：銅　器種：銭貨（寛永通寶）　残存：完形　法量：2.5 × 2.5，孔径 0.6，厚さ 0.12，重さ 3.7g　備考：古寛永

4　注記：銭 2　材質：銅　器種：銭貨（銭文不明）　残存：完形　法量：2.5 × 2.5，孔径 0.55，厚さ 0.19，重さ 3.4g　備考：寛永通寶か

5　注記：S6　材質：石（砂岩）　器種：台石　残存：長軸の一方が大きく欠失　法量：24.5 × 21.6 × 5.5，重さ 3872g　色調：灰色　使用痕：平坦面の一方に敲打痕 A が認められ，その面には窪みも 1 ヵ所認められる。窪みの中には鉄分が沈着している。もう一方の平坦面は全体的に平滑であり，荒砥として用いられた可能性がある。　備考：縄文時代の石器の再利用か

6　注記：S2　材質：石（砂岩）　器種：凹石　残存：大きく欠失。平坦面の一方の表面が大きく剥離する。　法量：21.4×31.2×10.3，重さ 10910g　色調：灰色　使用痕：平坦面の一方に 2 ヵ所，もう一方に 1 ヵ所の窪みがある。平坦面は平滑。　備考：縄文時代の遺物の再利用か

7　注記：S1　材質：石（砂岩）　器種：台石　残存：―　法量：19.4 × 11.9 × 6.9，重さ 2348g　色調：灰褐色　使用痕：平坦面が両面ともやや磨滅している



第 60 図　三反田蛾塚遺跡第 3 次調査区第 8A 号土坑出土遺物

8　注記：S4　材質：石（砂岩）　器種：台石　残存：端部 1 ヵ所欠失　法量：19.2 × 22.3 × 8.2，重さ 5140g　色調：灰色　使用痕：平坦面の隅部に敲打痕が若干認められる

9　注記：S3　材質：石（砂岩）　器種：不明　残存：―　法量：18.5 × 12.6 × 12.2，重さ 3428g　色調：全体煤けて黒色　使用痕：全体が煤ける。部分的に厚く煤が付着。

10　注記：S5　材質：石（砂岩）　器種：凹石　残存：長軸一方を大きく欠失　法量：6.1 × 6.1 × 3.9，重さ 204g　色調：破面暗灰褐色　使用痕：平坦面両面に窪みが 1 か所ずつあり　備考：縄文時代の遺物か

（6）弥生時代以前の出土遺物

遺構覆土および表土中より，弥生時代以前の遺物が出土している。以下まとめて報告する。

遺物説明

第61図

1　出土位置：SK8A　注記：SK8A №2　時代時期：縄文時代前期（興津式）　器種：深鉢形土器　文様：口縁部に窪みを作出，その付近に刺突文，口縁部に縦位の平行沈線文（細い半截竹管），胴部に横位の平行沈線文（太い半截竹管）

2　出土位置：SD3　注記：SD3 №9　時代時期：縄文時代中期（五領ヶ台式）　器種：深鉢形土器　文様：羽状縄文燃糸文（LR と RL の結束），結節文

3　出土位置：8 住，SD3　注記：8 住 P54・75，8 住№1，8 住ⅡK№6・7・9，8 住ⅢK№3・4・5・7・8・9，8 住 4 K№5，SD3 №2・8・9，表土№4　時代時期：縄文時代中期（加曽利Ｅ式）　器種：深鉢形土器　法量：口径 200 ㎜（残存率 38％），最大径 216 ㎜（残存率 27％）　文様：把手の付属が推定される，口縁部に２条の隆帯，隆帯が連結する部分あり（２箇所の破片が残存），無節縄文（Ｌ）　備考：同一個体の破片が 26 点検出されている，外面に炭化物付着

4　出土位置：8 住　注記：8 住ⅢK№8　時代時期：縄文時代中期（加曽利Ｅ式）　器種：深鉢形土器　文様：隆帯，単節縄文（LR）か　備考：外面に炭化物付着

5　出土位置：SD1　注記：SD1 №1　時代時期：縄文時代中期（加曽利Ｅ式）　器種：深鉢形土器　文様：隆帯，単節縄文（RL）

6　出土位置：SK　注記：SK №2　時代時期：縄文時代中期（加曽利Ｅ式）　器種：深鉢形土器　文様：隆帯，縄文（原体不明）

7　出土位置：表土　注記：表土№1　時代時期：縄文時代中期（加曽利Ｅ式）　器種：深鉢形土器　文様：隆帯，縄文（原体不明）

8　出土位置：SD1　注記：SD1 №5　時代時期：縄文時代中期（加曽利Ｅ式）　器種：深鉢形土器　文様：隆帯，単節縄文（RL）

9　出土位置：SD1　注記：SD1P11　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：把手部分に孔，隆帯，単節縄文（RL）

10　出土位置：8 住，SD3　注記：8 住ⅢK№8，SD3 №9　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　法量：底径 70 ㎜（残存率 21％）　文様：沈線文，単節縄文（RL）

11　出土位置：8 住　注記：8 住ⅠK№3　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（RL）

12　出土位置：SD3　注記：SD3 №8　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（RL）

13　出土位置：SD3　注記：SD3 №3　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

14　出土位置：SD　注記：SDP13　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：壺形土器　文様：橋状把手（欠損），隆帯，単節縄文（LR）

15　出土位置：表土　注記：表土№4　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：壺形土器　文様：橋状把手，刺突文

16　出土位置：SD1　注記：SD1 №1　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，刺突文，単節縄文（LR）

17　出土位置：8 住　注記：8 住ⅢK№5　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

18　出土位置：SD1　注記：SD1 №1　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（RL）

19　出土位置：8 住　注記：8 住 P51　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

20　出土位置：SD3　注記：SD3 №2　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

21　出土位置：SD1　注記：SD1 №1　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

22　出土位置：SD1　注記：SD1 №1　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

23　出土位置：8 住　注記：8 住ⅠK№1　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

24　出土位置：表土　注記：表土№1　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

25　出土位置：表土　注記：表土№4　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

26　出土位置：8 住　注記：8 住№1　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，単節縄文（LR）

27　出土位置：SD3　注記：SD3 №5　時代時期：縄文時代後期（堀之内１式）　器種：深鉢形土器　文様：沈線文

28　出土位置：8 住　注記：8 住ⅢK№3　時代時期：縄文時代　器種：深鉢形土器　文様：沈線文，無節縄文（L）

29　出土位置：8 住　注記：8 住№1　時代時期：縄文時代後期　器種：深鉢形土器　文様：単節縄文（LR）

30　出土位置：8 住　注記：8 住 4 K№9　時代時期：縄文時代後期　器種：深鉢形土器　文様：単節縄文（LR）

31　出土位置：8 住　注記：8 住№1　時代時期：縄文時代後期　器種：深鉢形土器　文様：単節縄文（LR）

32　出土位置：表土　注記：表土№3　時代時期：縄文時代後期　器種：深鉢形土器　文様：条線文

33　出土位置：SD1　注記：SD1 №2　時代時期：縄文時代後期　器種：深鉢形土器　文様：条線文

34　出土位置：8 住　注記：8 住ⅢK№8　時代時期：縄文時代後期　器種：深鉢形土器　文様：条線文

35　出土位置：SD3　注記：SD3 №9　時代時期：縄文時代後期　器種：深鉢形土器　文様：条線文

36　出土位置：SD1　注記：SD1 №1　時代時期：縄文時代後期　器種：深鉢形土器　文様：条線文

37　出土位置：SD3　注記：SD3 №8　時代時期：縄文時代後期　器種：深鉢形土器　文様：条線文（平行沈線文）

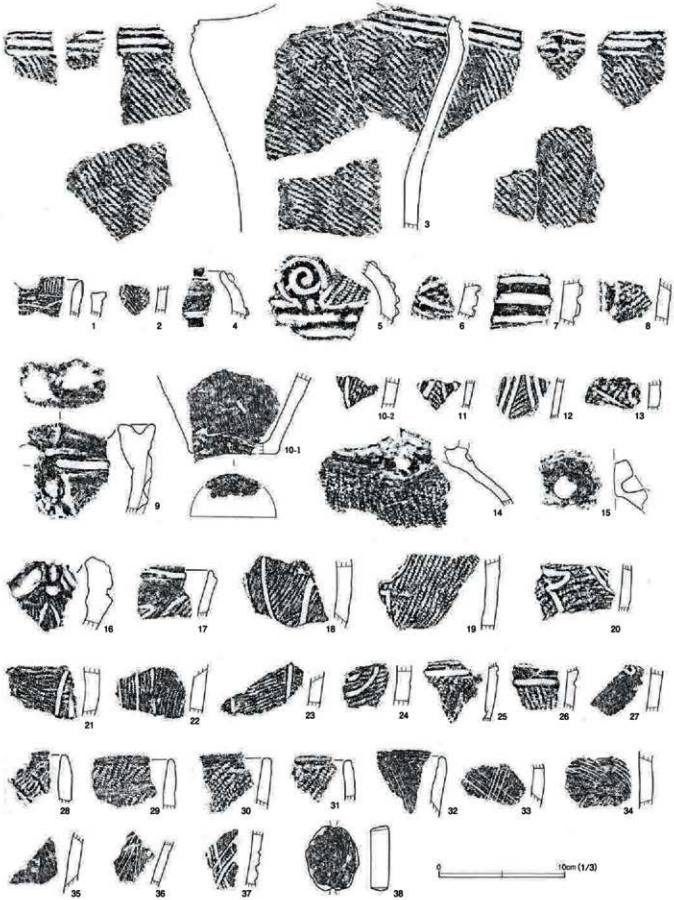
38　出土位置：SD3　注記：SD3 №2　時代時期：縄文時代中期か　器種：土器片錘　法量：長さ 51 ㎜，幅 43 ㎜，厚さ 14 ㎜　重量：35.9 g　備考：周縁を敲打で調整，長軸両端に切目

第62図

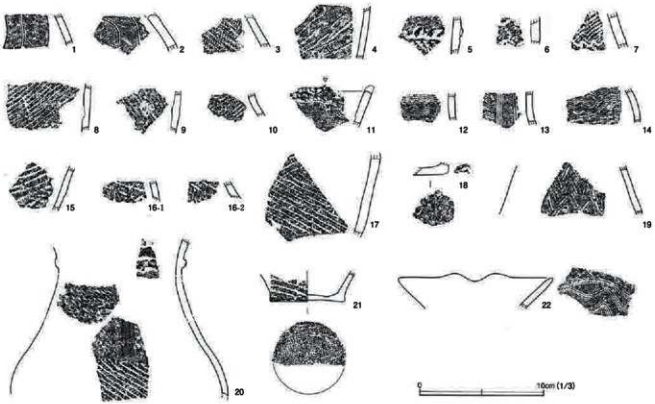
1　出土位置：8 住　注記：8 住ⅡK№9　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器　文様：沈線文（箆状工具）

2　出土位置：8 住　注記：8 住 4 K№2　時代時期：弥生時代中期（足洗式）　器種：壺形土器　文様：平行沈線文（平截竹管）

3　出土位置：8 住　注記：8 住ⅢK№4　時代時期：弥生時代中期　文様：単節縄文（RL）



第 61 図　三反田蛾塚遺跡第 3 次調査区出土遺物（1）



第 62 図　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区出土遺物（2）

4　出土位置：8 住　注記：8 住Ⅱ区№ 8　時代時期：弥生時代中期　文様：付加条縄文 (R × R か)

5　出土位置：8 住　注記：8 住Ⅱ区№ 5　時代時期：弥生時代後期　文様：複合口縁，複合部刺突文 (指頭か)，単節縄文 (RL) か

6　出土位置：不明　注記：無し　時代時期：弥生時代後期　文様：単節縄文 (RL)，結節文

7　出土位置：SD1　注記：SD1 № 5　時代時期：弥生時代後期　文様：単節縄文 (LR)，結節文

8　出土位置：SD1　注記：SD1 № 2　時代時期：弥生時代後期　器種：壺形土器　文様：付加条縄文 (R-S) 備考：内面剥落

9　出土位置：SD1　注記：SD1 № 1　時代時期：弥生時代後期　器種：壺形土器　文様：付加条縄文 (I-Z か) 備考：内面剥落

10　出土位置：表採　注記：表採№ 2　時代時期：弥生時代後期　文様：付加条縄文 (LR+2R)

11　出土位置：8 住　注記：8 住Ⅰ区№ 3　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (大型)　文様：口唇部突起貼付，口唇部刻み (縄文原体)，口縁部櫛描波状文 (3 本櫛歯)　備考：胎土に金雲母を含む

12　出土位置：SD1　注記：SD1 № 5　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：横区画波状文，櫛描文 (5 本櫛歯)

13　出土位置：8 住　注記：8 住 4 区№ 5　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：櫛描文 (3 本櫛歯)　備考：胎土に金雲母を含む

14　出土位置：8 住　注記：8 住Ⅱ区№ 7　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：横区画波状文，櫛描文 (5 本櫛歯)

15　出土位置：8 住　注記：8 住 4 区№ 7　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：付加条縄文 (R-S，L-Z)

16　出土位置：SD3　注記：SD3 № 7　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (大型)　文様：付加条縄文 (L×L)　備考：胎土に金雲母を多量含む，内面剥落

17　出土位置:SD1　注記:SD1P1　時代時期:弥生時代後期(十王台式)　器種：壺形土器 (大型)　文様：付加条縄文 (L×L)

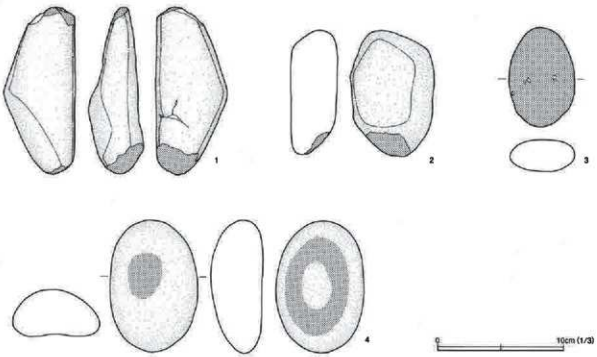
18　出土位置：SD3　注記：SD3 № 4　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　文様：付加条縄文 (R-S)，底面布目痕

19　出土位置：8 住　注記：8 住Ⅰ区№ 1　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中・小型)　法量：最大径 114 ㎜ (残存率 15%)　文様：縦区画内綾杉状文，櫛描文 (3 本櫛歯)

20　出土位置：8 住　注記：8 住Ⅲ区№ 7，8 住 4 区№ 4，時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (中型)　法量：頸径 99 ㎜ (残存率 13%)，胴径 174 ㎜ (残存率 7%)　文様：口縁部無文，隆帯 1 条 (指頭押圧)，横区画直状文，縦区画 3 条，縦区画内波状文 (下→上)，縦区画内綾杉状文，櫛描文 (4 本櫛歯)，付加条縄文 (L×L)　備考：外面炭化物付着

21　出土位置：8 住　注記：8 住Ⅱ区№ 5　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：壺形土器 (小型)　法量：底径 59 ㎜ (残存率 55%)　文様：付加条縄文 (L × L)，底面砂痕　備考：胎土に金雲母を多量含む

22　出土位置：8 住　注記：8 住Ⅲ区№ 8　時代時期：弥生時代後期 (十王台式)　器種：高坏形土器 (片口付)　法量：口径 124 ㎜ (残存率 14%)　文様：片口部付近格子状文 (箆状工具)，横区画直状文，大振り波状文，櫛描文 (4 本櫛歯)　備考：胎土に金雲母を多量含む



第 63 図　三反田蛾塚遺跡第 3 次調査区出土遺物（3）

第 63 図

1　出土位置：SD1　注記：SD1 №5　器種：敲石　石材：砂岩　法量：長さ 132 ㎜，幅 56 ㎜，厚さ 43 ㎜　重量：340.1 g　備考：長軸両端の２箇所を使用，下端は裏面寄りに敲打痕が集中する

2　出土位置：SD　注記：SDS6　器種：敲石　石材：砂岩　法量：長さ 98 ㎜，幅 66 ㎜，厚さ 37 ㎜　重量：358.6 g　備考：長軸の端部を使用，表面寄りに敲打痕が集中する

3　出土位置:8 住　注記:8 住 I 区№1　器種:磨石　石材:石英　法量:長さ 78 ㎜，幅 52 ㎜，厚さ 26 ㎜　重量：152.4 g　備考：全体的に磨滅する，被熱による変色 (黒化) が認められる

4　出土位置:8 住　注記:8 住 I 区№1　器種:磨石　石材:砂岩　法量:長さ 104 ㎜，幅 70 ㎜，厚さ 41 ㎜　重量：396.8 g　備考：表面は最も高い部分を中心に，裏面は中央の窪みが残されて環状に磨滅する，被熱による変色 (赤化) が認められる

1　津田若宮遺跡第 8 次調査区（南東から）

2　津田若宮遺跡第 8 次調査区 3 号トレンチ（南東から）

3　岡田遺跡第 19 次調査区（東から）

4　岡田遺跡第 19 次調査区 5 号トレンチ（北西から）

5　東石川内後遺跡第 1 次調査区（北東から）

6　東石川内後遺跡第 1 次調査区 1 号トレンチ（北西から）

7　東石川内後遺跡第 1 次調査区基礎石（東から）

8　東石川内後遺跡第 1 次調査区第 1 号土坑（西から）

9　金上向山遺跡第 2 次調査区（北東から）

10　飯塚前遺跡第 2 次調査区（東から）

図版 2　試掘調査（2）

11　西中根遺跡第 3 次調査区（南から）

12　三反田新堀遺跡第 16 次調査区（西から）

13　磯崎東古墳群第 8 次調査区全体遠景（南から）

14　磯崎東古墳群第 8 次調査区第 1 号墳（南から）

15　磯崎東古墳群第 8 次調査区第 1 号石室（北から）

16　磯崎東古墳群第 8 次調査区第 1 号石室（北西から）

17　磯崎東古墳群第 8 次調査区第 2 号石室（東から）

18　磯崎東古墳群第 8 次調査区第 3 号石室（北西から）

19　磯崎東古墳群第 8 次調査区第 4 号石室（北から）

20　畠ノ原遺跡第 2 次調査区（北東から）

21　畠ノ原遺跡第 2 次調査区 3 号トレンチ第 2 号住居跡（南東から）

22　金上塙遺跡第 7 次調査区（北から）（右奥の森に古墳がある）

23　金上塙遺跡第 7 次調査区第 1 号住居跡（東から）

24　金上塙遺跡第 7 次調査区第 3 号トレンチ（北西から）

25　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区遠景（南から）

26　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区（南から）

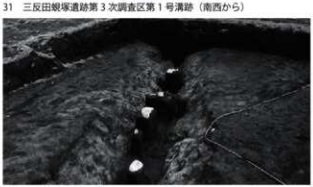
27　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡（南から）

28　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡ピット 1（北から）

29　三反田蜆塚遺跡第 3 次調査区第 8 号住居跡ピット 1（西から）

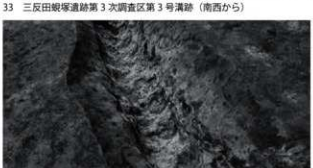
30　三反田蜆塚遺跡第3次調査区第8号住居跡遺物出土状況（南から）

31　三反田蜆塚遺跡第3次調査区第1号溝跡（南西から）



32　三反田蜆塚遺跡第3次調査区第1号溝跡遺物出土状況（南西から）

33　三反田蜆塚遺跡第3次調査区第3号溝跡（南西から）



34　三反田蜆塚遺跡第3次調査区第3号溝跡底面の鋤先痕（北東から）

35　三反田蜆塚遺跡第3次調査区第5号土坑（北東から）

36　三反田蜆塚遺跡第3次調査区第7号土坑（北西から）

37　三反田蜆塚遺跡第3次調査区第8A・B号土坑（南東から）

38　三反田蜆塚遺跡第3次調査区第8A号土坑遺物出土状況（北東から）

報 告 書 抄 録

フリガナ	ヘイセイニジュウサンネンドヒタチナカシナイイセキハックツチョウサホウコクショ
書名	平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
編集者名	佐々木義則
著者名	鈴木素行，稲田健一，栗田昌幸，矢野徳也，佐々木義則
編集機関	財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化課文化財調査事務所
編集機関所在地	茨城県ひたちなか市大字中根3499　ひたちなか市埋蔵文化財調査センター内
発行機関	ひたちなか市教育委員会
発行機関所在地	茨城県ひたちなか市和田町2丁目12-1
発行年	2012年3月16日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	標高	調査期間	面積	備考
		市町村	遺跡番号						
ツダワカミヤ 津田若宮	ひたちなか市 津田字若宮	08221	135	36°40′38″	140°48′69	26.0 m	20110201 ～20110202	24 ㎡	
オカダ 岡田	ひたちなか市 三反田字八幡	08221	039	36°36′83″	140°54′03″	22.0 m	20110208 ～20110210	170 ㎡	
ヒガシシカワウチゴ 東石川内後	ひたちなか市 東大島字内後	08221		36°40′20″	140°52′74″	26.0 m	20110309 ～20110325	48 ㎡	
カネアゲムカイヤマ 金上向山	ひたちなか市 金上字向山	08221	116	36°37′32″	140°54′19″	23.0 m	20110426 ～20110514	340 ㎡	
イイヅカマエ 飯塚前	ひたちなか市 三反田字新平	08221	072	36°36′72″	140°54′97″	22.0 m	20110607 ～20110609	37 ㎡	
ニシナカネ 西中根	ひたちなか市 中根字城之内	08221	014	36°37′90″	140°55′08″	22.0 m	20110616 ～20110622	56 ㎡	
ミタンダシイヅカ 三反田椎塚	ひたちなか市 三反田字天王前	08221	284	36°36′77″	140°55′82″	22.0 m	20110722 ～20110823	154 ㎡	
ミタンダシンボリ 三反田新堀	ひたちなか市 三反田字新堀	08221	109	36°37′35″	140°54′77″	22.0 m	20110803 ～20110806	54 ㎡	
イソザキヒガシコフングン 磯崎東古墳群	ひたちなか市 磯崎町	08221	240	36°38′03″	140°62′43″	23.0 m	20110830 ～20110924	414 ㎡	
ハタノハラ 畠ノ原	ひたちなか市 金上字畑ヶ原	08221	117	36°37′44″	140°53′84″	23.0 ㎡	20111124 ～20111208	102 ㎡	
カネアゲハナワ 金上塙	ひたちなか市 金上字塙	08221	112	36°37′18″	140°53′47″	23.0 ㎡	20111130 ～20111206	96 ㎡	

平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

2012 年 3 月 16 日発行

編　集　財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

発　行　ひたちなか市教育委員会

〒 311-1214　茨城県ひたちなか市和田町 2 丁目 12-1

TEL029-273-0111

財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

〒 312-0011　茨城県ひたちなか市中根 3499

TEL029-276-8311

印　刷　株式会社プリントエイジ

〒 312 - 0033　茨城県ひたちなか市市毛 1158